

富山県五箇山地域の観光客動向に関する一考察

Study of Tourism in Gokayama, Japan

佐藤悦夫
SATO Etsuo

1 はじめに

岐阜県の白川郷と富山県の五箇山地方は、8世紀から始まった白山を信仰の対象とする山岳信仰の修験の行場として開かれ、長い間天台宗の影響下にあったと言われている。また、13世紀以降になると浄土真宗がこの地域にも浸透し、各集落に寺や道場が設けられ、江戸時代になると五箇山は、加賀藩領となった（斉藤、稲葉 1996）。五箇山とは、現在の富山県南砺市の旧平村と旧上平村の両地域を示す呼称である。平村、上平村が誕生したのは、明治22年のときである。村の名称は五箇山地方に伝わる「平家落人伝説」からきていると言われている。明治以降、相倉集落、菅沼集落もそれぞれ村の一部となり近代的な行政組織に組み込まれ、現代に至っている。

五箇山地域は、合掌家屋と集落の歴史的景観、そして周囲の自然環境などが良好に保存されていることが、日本を代表する歴史的遺産として高く評価され、1995年に五箇山の合掌造り集落（相倉、菅沼集落）が、岐阜県白川郷の荻町集落とともに世界遺産委員会で正式に世界遺産として登録された。相倉集落は、戸数27戸、人口90人（1994年8月現在）で、保存地区に現存する合掌造りの家屋は、20棟であり、これらの多くは江戸時代末期から明治時代に建てられたものである。一方、菅沼集落は、戸数8戸、人口40人（1994年8月現在）で、8棟は江戸時代後期から明治時代に建築、1棟は1925年に新築されたものである。これらの地域の維持、修理は、所有者が主体的に、ときには「組」による共同作業により適切に行われていた。また、1970年の史跡指定以降は、国及び県、村の補助を受けながら従来と同様に所有者または「組」の共同作業によって維持修理が行われている（斉藤・稲葉 1996）。

本稿は、2008年11月1日、2日の両日五箇山地域で行った観光客の動向調査（観光客へのアンケート調査と駐車場での入込数調査）をまとめたものである。アンケートの分析結果に基づき、五箇山地域の観光のあり方について検討する。

2 五箇山地域の観光

2-1 五箇山地域の観光に関する研究史

富山県五箇山地域の近年の観光に関する調査を見てみると、①観光資源としての五箇山の開発・地域振興に関する研究、②五箇山地域の住民意識に関する研究、③五箇山地域の観光客の動向に関する研究の3点に分類することができる。

観光資源としての五箇山の開発・地域振興に関する研究では、1975年に日本観光開発財団から

五箇山青少年旅行村に関する報告書が出版されている。この報告書では、観光レクリエーション地としての旧上平村の現状と課題について分析している（日本観光開発財団 1975）。2004年に8つの町村（城端町、平村、上平村、利賀村、井波町、井口村、福野町、福光町）が合併し南砺市が誕生した。南砺市では、南砺市観光マスタープランを作成し南砺市の現状の把握、観光客誘致に関する問題点とその解決法などを検討している。この中で五箇山地域は、全国的なブランドとして世界にアピールできる資源として位置づけられている（南砺市観光課 2006）。

五箇山地域が観光地化されることにより住民に及ぼした影響に関する研究では、荒井等の相倉集落の民宿調査によると、五箇山の観光発展過程は、「1期：観光初動期（昭和32年以前）」、「2期：合掌造り保存期（昭和33年～45年）」、「3期：合掌造り保存による観光成長期（昭和45年～51年）」、「4期：道路整備に伴う観光発展期（昭和52年～59年）」、「5期：観光成熟期（昭和60年～平成6年）」、「6期：世界遺産登録による観光客急増期（平成7年以降）」に分類され、民宿の担い手も「決意」、「自覚」、「成長」、「成熟」の4つの成長過程を経ていることが明らかにされた（荒井、十代田 2000）。また、荒井等は五箇山の農山村が観光地化していくことと住民の生活空間や意識との関わりを明らかにするヒアリング調査を行い、世界遺産登録前後の家屋・屋敷地への進入状況を把握、それに対する住民の意識や対策の変化について考察した（荒井、十代田 2001）。筆者は、2005年に五箇山地域（相倉集落、菅沼集落を含む旧平村、旧上平村）において、五箇山地域が世界遺産に登録されたことにより地域住民に与えた影響を調査するために住民の意識調査を実施した。経済、社会文化、環境にかかわるアンケート調査の結果は、経済面では菅沼、相倉の合掌集落を除いて影響はあまり大きくないこと、社会文化面では合掌集落の保存と活用が強く意識されていること、環境面ではゴミ問題や車の渋滞など世界遺産に登録されたことによるマイナスの影響も見られた。「観光客が多く日常の生活に支障をきたすか」という質問に対しては、相倉集落・菅沼集落では28.5%（有効回答数14）が、全くそう思う、少しそう思う、と答えており、五箇山全体では24.7%（有効回答数238）であった（佐藤 2006）。

五箇山地域を訪れる観光客の動向に関する研究では、助重等が観光客や宿泊施設での聞き取り調査をもとに五箇山における観光の実態や東海北陸自動車道の白川郷インターチェンジの開通が五箇山観光に与えた影響について検討している。宿泊施設での聞き取り調査では、近距離からの宿泊客が少ないこと、宿泊施設の多くで東海北陸自動車道の白川郷インターチェンジの開通後、宿泊客が減ったこと、また、観光客への聞き取り調査では日帰り客が多いこと、観光客の8割強は滞在時間が3時間以内と短いこと、宿泊する観光客も大部分が五箇山地域以外で宿泊することなどが明らかにされた（助重、五箇山地域研究グループ 2006）。

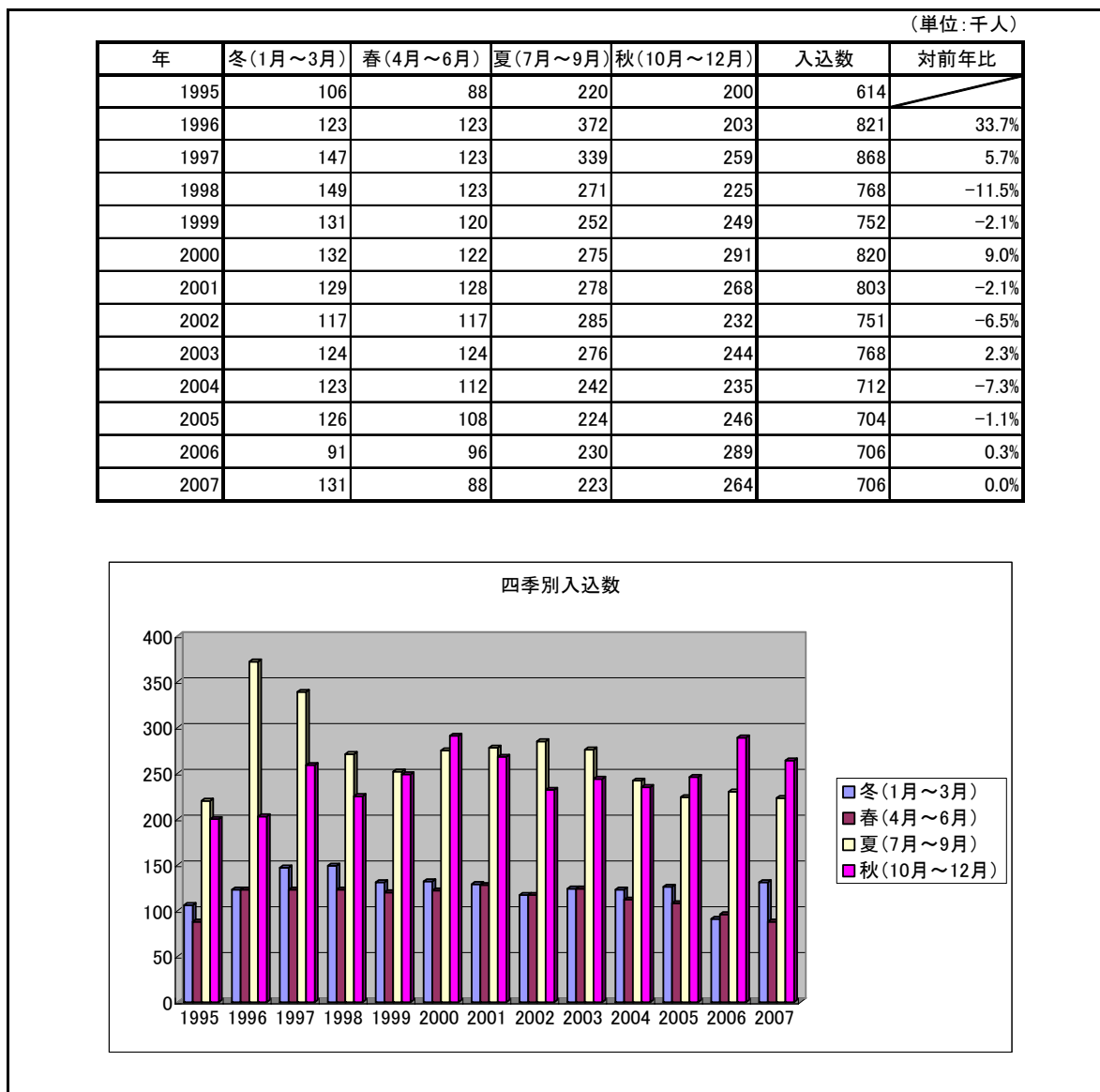
2-2 五箇山地域の観光客の動向

1995年から2007年までの五箇山地域の入込み数の動向を見てみると、当地域には毎年70万人前後の観光客が訪れている（図1）。1996年は、当地域が世界遺産に登録された（1995年12月登録）影響もあり前年比33.7%増の821,000人の観光客が訪れた。1997年も5.7%増の868,000人であったが、1998年から1999年にかけては減少した。2000年は、東海北陸道の五箇山インターチェンジの開通（2000年7月）、富山国体の開催などもあり9%増の820,000人まで回復した。全体的に四季別では、夏から秋にかけての観光客が冬から春にかけての観光客の約2倍にな

っている。夏には長期休暇がとれること、また秋の紅葉などが観光客に好まれていることが要因と考えられる。

2008年7月全線開通した東海北陸自動車道の影響を見てみると、2008年7月の入込数は45,000人（前年同月は36,000人）、8月の入込数133,000人（前年同月は114,000人）、9月の入込数は81,000人（前年同月は73,000人）と前年と比較して10%以上の増加があった（五箇山観光協会2009）。

図1：五箇山地域の年度別、四季別入込数



(出所：1995-2003年のデータは富山県商工労働部観光課 2003、2004、2004-2007年のデータは五箇山観光協会)

3 五箇山地域の観光客のアンケート調査

3-1 調査の概要

東海北陸自動車道全線開通に伴う五箇山地域の観光動向の実態を調査するために2008年11月

1日（土）、2日（日）の両日に相倉集落、菅沼集落において観光客に対するアンケート調査並びに駐車場における入込数調査を実施した（表2、表3）。東海北陸自動車道は、2008年7月5日に飛騨清見インターチェンジと白川郷インターチェンジ間25Kmが結ばれ、愛知県一宮市から岐阜県を經由して富山県砺波市に至る高速道路が完成した。この東海地方と北陸地方を南北に結ぶ高速道路の完成により、五箇山地域を含む富山県の観光客の動向がどのように変化するのかを把握するために2008年は五箇山地域を調査した。

アンケート調査では、菅沼集落と相倉集落に分かれ観光客から無作為に対象を選び、聞き取りを行った。アンケートのサンプル数は、菅沼集落236人、相倉集落212人の合計448人であった。調査データはマイクロソフト社のACCESSを使用してのデータベース化した。また各種条件を入力してデータを抽出し、エクセルで集計を行った。

3-2 観光客アンケートの分析結果及び入込数調査

（1）全体的傾向ならびに調査地毎の差異

1）回答者の個人属性

全体集計ならびに調査地ごとの集計結果を表3に示す。観光客を対象とした聞き取りアンケートの回答者総数は448人（菅沼集落236人、相倉集落212人）であった。まず、回答者の属性を見てみると、性別では、男性249人（55.6%）女性188人（42.0%）であった。また、回答者の年齢構成は、20歳未満3人（0.7%）、20歳代42人（9.4%）、30歳代57人（12.7%）、40歳代58人（12.9%）、50歳代107人（23.9%）、60歳代133人（29.7%）、70歳以上39人（8.7%）であり、60歳代が最も多かった。各年齢層が合掌集落を訪れているが、特に50歳以上の年齢層が全体の約62%を占めている。助重等の調査データもほぼ同様の結果が出ており五箇山地域を訪れる観光客の年齢層としては50歳以上が多いことがわかる（助重、五箇山地域研究グループ2006）。

2）観光客の居住地（問1）

観光客の居住地に関しては、富山県内98人（21.9%）、富山県外345人（77.0%）、外国4人（0.9%）で、県外からの観光客が圧倒的に多かった。県外からの観光客を都道府県別にみると、愛知県が最も多く80人、以下石川県47人、岐阜県33人と続く（表4）。地域別に見ると富山県を除く中部地域が188人と最も多く、次に関西57人、関東52人と続き、海外からは、台湾、イギリス、フランス、中国からそれぞれ1人の観光客が来ていた。助重等の調査データでは、県外から来た観光客は69.6%であり、県外の中では石川県在住者が最も多く、ついで愛知県在住者であった（助重、五箇山地域研究グループ2006）。

調査地別では、菅沼集落は県内者15.3%に対して県外者が83.1%、相倉集落では県内者29.2%に対して県外者70.3%となっており、菅沼集落に多くの県外観光客が訪れている。

3）同行者の状況（問2、問3）

同行者に関しては、「家族・親戚と」と回答した人は308人（68.8%）でもっとも多く、次に「友人と」と回答した人は79人（17.6%）であった。その他、「地域などの団体」が24人（5.4%）、「職場のグループで」が18人（4.0%）であった。同行人数に関しては、「10人未満」が406人（90.6%）で最も多かった。また、20人以上のグループは、21人（4.7%）であり、大型観光パ

スを使用した団体旅行客は全体としては多くない。

調査地別では、同行者数において 20 人以上のグループは、菅沼集落より相倉集落に多く訪れている。

4) 訪問回数 (問 4)

訪問回数に関しては、「はじめて」が 284 人 (63.4%) で最も多く、次いで「2 回目」が 67 人 (15.0%)、「4 回以上」が 57 人 (12.7%) となっている。2 回以上のリピーターが全体の 36.4% を占めるに過ぎず、これからリピーターをいかに増やすかが課題であろう。

訪問頻度に関しては、調査地別で大きな差は見られない。

5) 交通手段 (問 5)

交通手段に関しては、「自家用車」が 366 人 (81.7%) で最も多く、次いで「観光バス」が 65 人 (14.5%) であった。観光バスの利用客を調査地別に見ると菅沼集落が 10.6%、相倉集落が 18.9% と相倉集落が多い。これは相倉集落に 20 人以上のグループが多いのに対応している。

6) 滞在時間 (問 6)

五箇山地域での滞在時間は、「1 時間程度」が 212 人 (47.3%) と最も多く、次いで「2 時間程度」90 人 (20.1%)、「30 分程度」82 人 (18.3%) となっている。五箇山地域で宿泊を予定している観光客は、7 人 (1.6%) と少ない。調査地別の差異もほとんど見られない。

7) 五箇山地域での立ち寄り先 (問 7)

アンケートサンプル数 448 人中、相倉集落を訪問した観光客は 272 人 (60.7%)、一方菅沼集落を訪問した観光客は 306 人 (68.3%) であり、他の訪問地の割合が 10% 以下であることを考えるとこの 2 地域が五箇山観光の重要な訪問地であることは疑いない。しかし、菅沼集落を訪れた 236 人中、相倉を訪れたのは 60 人 (25.4%)、相倉集落を訪れた 212 人中、菅沼集落を訪れたのは 70 人 (33.0%) であり、両方の合掌集落を訪れる割合は必ずしも大きくない¹。

8) 五箇山地域における消費額 (問 8-1~問 8-4)

五箇山で「飲食する人」は、248 人 (55.4%) で、金額としては「1000 円以上 2000 円未満」が 117 人 (47.2%) で最も多く、次いで「1000 円未満」が 47 人 (19.0%) であった。また、「お土産を購入する人」は、264 人 (58.9%) で、金額は「1000 円以上 2000 円未満」が 95 人 (36.0%) で最も多く、ついで「2000 円以上 3000 円未満」が 61 人 (23.1%)、「3000 円以上」が 54 人 (20.5%) であった。五箇山を訪問する観光客は、食事よりお土産にお金を使っている。

9) 五箇山地域への入所および五箇山地域からの出所方向と高速道路の利用 (問 9~問 12)

五箇山へは、「白川郷・高山方面」から入ってきた人が 179 人 (40.0%) で最も多く、次いで「富山・立山・黒部方面」が 116 人 (25.9%)、「金沢・加賀・東尋坊方面」が 74 人 (16.5%) であった。また、五箇山から向かう方面としては、「白川郷・高山方面」が 153 人 (34.2%) で最も多く、「富山・立山・黒部方面」が 105 人 (23.4%)、「金沢・加賀・東尋坊方面」が 77 人 (17.2%)、「高岡・氷見方面」が 73 人 (16.3%) と続く。五箇山に来る際に東海北陸自動車道を利用した人は、314 人 (70.1%)、次の訪問地へ向かう際に利用する人は、291 人 (65.0%) であった。

¹ : アンケートの問 7 は複数回答可能な質問である。集計に関しては、複数回答の合計ではなく、有効回答者数を分母にして割合を計算している。

これらの項目は、観光客の居住地と強く関係があると考えられるので、「居住地別動向」で詳しく検討する。

10) 旅行日程 (問 13)

今回の旅行の日程では、「日帰り」が 232 人 (51.8%) で最も多く、ついで「1泊2日」が 132 人 (29.5%)、「2泊3日」が 66 人 (14.7%) であった。

(2) 居住地別傾向

居住地別傾向を把握するために、富山県居住の観光客と富山県外の観光客に分けて分析した。富山県外の観光客に関しては、日本観光協会の地域区分に従って地域ごとにまとめて分析の対象としている(表4)(日本観光協会 2005)。

年齢層(図2-b)においては、富山県居住の観光客は、20歳代から60歳代まで各年齢層が比較的平均的に訪れているが、中部地域、関西地域、関東地域では50歳代~60歳代で全体の半数を占める。

同行者(図2-c、図2-d)では、「家族」や「友人」と「10人以下のグループ」という傾向がどの地域でも見られる。「20人以上のグループ」は、少数であるが中部、関東、甲信越などの地域から来ている。

訪問回数(図2-e)においては、富山県居住の観光客の回数別傾向は、「はじめて」の人が30人(30.6%)と少なく、複数回数訪問している割合が大きい。県外の観光客は、「はじめて」の割合が大きい、中部地域の観光客では、「2回目」36人(19.1%)、関東地域の「2回目」8人(15.4%)と比較的リピーターの割合は大きい。

交通手段(図2-f)においては、富山県居住の観光客は、ほぼ全員が「自家用車」を利用している。県外の観光客も自家用車が大部分であるが、「観光バス利用」は、中部32人(17.0%)、関西6人(10.5%)、関東3人(5.8%)、甲信越11人(44.0%)であった。「その他」と回答した人は、レンタカーやタクシーを利用している。

滞在時間(図2-g)では、どの地域も「1時間程度」という割合が大きく、地域別の大きな差異は認められない。「3~4時間滞在」では、富山県居住者が19人(19.4%)と最も多かった。

五箇山での立ち寄り先(図2-h)と消費額(図2-j~図2-l)に関しては地域別の大きな差異を認められない。

五箇山地域への入所方向(図2-m)、出所方向(図2-n)、高速道路利用の有無(図2-o、図2-p)に関しては、富山県居住の観光客は「富山・立山・黒部方面」と「高岡・氷見方面」から入る人がほとんどであり、また出所方向では「白川郷・高山方面」に向かう人は7人(7.1%)と少ない。「富山・立山・黒部方面」から入ってきた人63人中、「富山・立山・黒部方面」に戻る人は46人(73.0%)、「高岡・氷見方面」から入ってきた人30人中、「高岡・氷見方面」に戻る人は25人(83.3%)であることから五箇山地域は富山県人にとっては、「日帰り」型の観光地であることがわかる。

中部地域からの観光客では、居住県の違いにより「金沢・加賀・東尋坊方面」47人と「白川郷・高山方面」112人の2つに大きく分かれる。「金沢・加賀・東尋坊方面」から入ってきた47人中、「金沢・加賀・東尋坊方面」に戻る人は22人(46.8%)、「白川郷・高山方面」に向かう人は17

人（36.2%）であった。一方、「白川郷・高山方面」から入ってきた人 112 人中、「白川郷・高山方面」に戻る人は 50 人（44.6%）、「富山・立山・黒部方面」に向かう人 23 人（20.5%）、「高岡・氷見方面」に向かう人 17 人（15.2%）、「金沢・加賀・東尋坊方面」15 人（13.4%）、「和倉・能登方面」3 人（2.7%）であった。

関西からの観光客では、「白川郷・高山方面」から入る人が最も多く、次に「金沢・加賀・東尋坊方面」、「富山・立山・黒部方面」と続く。「白川郷・高山方面」から入ってくる人 29 人中、「白川郷・高山方面」に戻る人 12 人（41.4%）、「金沢・加賀・東尋坊方面」に向かう人 8 人（27.6%）、「富山・立山・黒部方面」5 人（17.2%）、「高岡・氷見方面」2 人（6.9%）であった。また、「金沢・加賀・東尋坊方面」から入ってくる観光客 13 人中、「金沢・加賀・東尋坊方面」に戻る人は 4 人（30.8%）、「白川郷・高山方面」に向かう人 5 人（38.5%）、「富山・立山・黒部方面」3 人（23.1%）であった。

関東からの観光客では、「富山・立山・黒部方面」から入る人が最も多く、次いで「白川郷・高山方面」であった。「富山・立山・黒部方面」から入る 18 人中、「富山・立山・黒部方面」に戻る人は 5 人（27.8%）、「白川郷・高山方面」8 人（44.4%）、「金沢・加賀・東尋坊方面」2 人（11.1%）、「高岡・氷見方面」2 人（11.1%）であった。一方、「白川郷・高山方面」から入る 17 人中、「白川郷・高山方面」に戻る人 11 人（64.7%）、「富山・立山・黒部方面」3 人（17.6%）、「高岡・氷見方面」2 人（11.8%）となっている。

甲信越からの観光客では、「白川郷・高山方面」から入る人が最も多く、ついで「新潟・長野方面」であった。「白川郷・高山方面」から入る 10 人中、「白川郷・高山方面」に戻る人は 3 人、「富山・立山・黒部方面」3 人、「和倉・能登方面」2 人であった。一方、「新潟・長野方面」から入る 8 人中、「新潟・長野方面」に戻る人は 2 人、「白川郷・高山方面」に向かう人は 2 人、「金沢・加賀・東尋坊方面」2 人、「高岡・氷見方面」1 人、「和倉・能登方面」1 人であった。

旅行日程（図 2-q）に関しては、富山県居住の観光客は、94 人（95.9%）が「日帰り」である。中部でも「日帰り」が 109 人（58.0%）と最も多く、次いで「1泊2日」59 人（31.4%）、「2泊3日」19 人（10.1%）となっている。関西では、「1泊2日」が 27 人（47.4%）と最も多く、次いで「日帰り」「2泊3日」がそれぞれ 14 人（24.6%）であった。関東では「2泊3日」が 20 人（38.5%）と最も多く、次いで「1泊2日」16 人（30.8%）、「日帰り」6 人（11.5%）であった。甲信越では、「1泊2日」が 15 人（60.0%）で最も多く、次いで「日帰り」が 7 人（28.0%）であった。

（3）年齢別傾向

年齢別傾向を把握するために、年齢データを「29 歳以下」45 人、「30～59 歳」222 人、「60 歳以上」172 人の 3 グループに分類し分析した。ここでは、特に年齢層ごとに差異の認められた項目について述べる。

男女構成（図 3-a）では、「29 歳以下」のグループでは女性が男性よりも 20 ポイント程多く、その他の年齢層では、逆に男性が女性より 20 ポイント程多い。

同行者ならびに人数（図 3-c、図 3-d）に関しては、どの年齢層も「家族」が多いのであるが、「29 歳以下」のグループでは、「友人と」の割合が 37.8%と比較的大きい。人数に関しては、10

人以上の団体の割合が多いのは、「60歳以上」のグループである。

訪問回数（図3-e）に関しては、「29歳以下」のグループでは、「はじめて」が77.8%と最も大きく、次いで「2回目」が15.6%であった。「3回目」「4回以上」の割合が非常に小さい。「30歳～59歳」のグループでは、「はじめて」が68.5%と大きいものの、「2回目」13.1%、「4回以上」も13.1%と比較的大きい。「60歳以上」のグループでは、「はじめて」が52.9%と他の年齢層と比較して小さく、2回目以上のリピーターの割合が大きい。

交通手段（図3-f）に関しては、どの年齢層でも「自家用車」の割合が大きい。「60歳以上」のグループでも、その割合は75.6%であった。

飲食に使用する金額（図3-j）としては、「29歳以下」のグループでは、「1000円未満」が44.4%と大きく、「30～59歳」のグループならびに「60歳以上」のグループでは、「1000円以上2000円未満」がそれぞれ44.0%、54.5%と大きい。お土産に使用する金額（図3-l）に関しては、「29歳以下」のグループでは、「1000円未満」が34.8%、「1000円以上2000円未満」が30.4%であり、「30歳以上59歳以下」のグループでは、「1000円以上2000円未満」が40.9%、「2000円以上3000円未満」が22.0%であった。「60歳以上」のグループでは、「1000円以上2000円未満」から「3000円以上」までそれぞれ30%弱となっており、年齢が上がるにしたがって消費額も大きい。

高速道路の利用（図3-m、図3-n）に関しては、「29歳以下」のグループでは、他の年齢層と比較して少ない。

旅行日程（図3-o）に関しては、どの年齢層においても、「日帰り」が最も多く、次に「1泊2日」となっている。

（4）訪問回数別傾向、滞在時間別傾向

訪問回数別傾向を把握するために、「はじめて」訪問した人284人、「2回以上」訪問した人163人を対象に分析した。訪問回数別滞在時間（図4-a）に関しては、「はじめて」の人は、約90%が2時間以内の滞在となっている。一方、「2回目以上」の人は、1時間程度の滞在時間が多いものの、「3～4時間」の滞在も16.6%と大きい。訪問回数別立ち寄り先（図4-b）に関しては、あまり大きな差異はないが、「2回目以上」の人は、「温泉に入る」、「道の駅上平」、「道の駅平」などに立ち寄る割合が大きい。訪問回数別旅行日程（図4-c）に関しては、「はじめて」の人は、「日帰り」40.5%、「1泊2日」、34.9%、「2泊3日」20.1%となっているが、「2回目以上」の人は、「日帰り」が71.8%と極端に大きく、「1泊2日」は20.2%であった。

次に、滞在時間別立ち寄り先の傾向を把握するために、「30分程度」82人、「1時間程度」212人、「2時間程度」90人、「3～4時間」46人、「1日」10人、「1日以上」7人を対象に分析した（図5-a）。滞在時間が長くなると、「道の駅平」や「道の駅上平」を訪問する観光客の割合も大きくなる。「岩瀬家」や「村上家」のように単独で合掌造りの家がある場合は、あまり人気がないので、五箇山を訪れる観光客は、合掌造りの集落全体の景観に魅力を感じているのであろう。

(5) 入込数調査

観光客へのアンケート調査と平行して、菅沼集落と相倉集落の駐車場で入込調査を行なった(表5、表6)。菅沼集落には2箇所の駐車場、相倉集落にも2箇所の駐車場があったので合計4箇所で調査した。

菅沼駐車場では、11月2日(日曜日)には約1800人の入込数があった。中部地区が最も多く、関西、関東、甲信越と続く。午前中では11:00~12:00の時間帯、午後からは14:00以降に多くの観光客が訪れている。観光バスも上記時間帯に多かった。菅沼集落は東海北陸自動車道の五箇山インターの近くに立地しているため、インターを降りて気軽に立ち寄ることができるのであろう。

一方、相倉駐車場では、11月2日(日曜日)には約2400人の入込数があった。中部地域が最も多く、甲信越、関西、関東と続く。時間帯では、どの時間帯も平均的に観光客が訪れているが、13:00~14:00の間に最も多くの入込数があった。観光バス利用者も12:00~14:00が最も多いので、観光バスの到着が入込数に大きく影響を及ぼしている。相倉集落は、五箇山インターから10kmほど離れたややアクセスに難のある場所にある集落なので菅沼のように気軽に訪れるというのではなく、明確な訪問意識をもって観光客は訪れていると考えられる。規模的にも相倉集落は大きいので多くの観光客、特に県外の観光客にとって五箇山=相倉集落のイメージが強いのではないかと考えられる。

3-3 アンケート分析のまとめ

(1) 富山県居住の観光客の傾向

富山県居住の観光客特徴としては、①若者(特に女性)が比較的多いこと、②家族、友人と10人以下のグループで訪問する人が多いこと、③複数回訪問が多いこと、④自家用車の使用が多いこと、⑤3~4時間の滞在が比較的多いこと、⑥ほとんどが日帰りであること、等があげられる。また、東海北陸自動車道を利用する人も50%以下なので、高速道路を利用しない人は国道156号を利用していると考えられる。富山方面から国道156号を利用すると、「道の駅平」を通るのでこの道の駅への訪問も比較的多い。

(2) 中部地域居住の観光客の傾向

中部地域の観光客の特徴は、①中高年の割合が多いこと、②家族、友人と10人以下のグループで訪問する人が多いが、20人以上の団体観光客も見られること、③2回目訪問の人が比較的多いこと、④観光バス利用者が比較的多いこと、⑤日帰りまたは1泊2日が多いこと、等があげられる。

この地域からの観光客の半数以上が「日帰り」であるが、宿泊を伴う旅行をしている人は次のようなところに宿泊している。愛知県、静岡県、岐阜県居住で1泊の宿泊を伴う観光をしている49人の宿泊先としては、宇奈月4人、魚津4人、金沢5人、氷見・和倉7人、富山市7人などが上位の宿泊先であった。一方、石川県、福井県居住で1泊の宿泊を伴う観光をしている10人の宿泊先は、高山、白川がそれぞれ2人、そのほか、下呂、宇奈月、富山等があげられていた。

(3) 関西地域居住の観光客の傾向

関西地域の観光客の特徴はほぼ中部地域と同じであるが、異なる点としては、はじめて訪問する人が多いこと、旅行日程では「1泊2日」が最も多いことがあげられる。

「1泊2日」の観光客27人の宿泊先は、高山4人、富山4人、ひるがの高原、和倉、小川温泉がそれぞれ2人であった。その他、1人であるが五箇山に泊まる人もいた。

(4) 関東地域居住の観光客の傾向

関東地域の観光客の特徴もほぼ中部地域と同じであるが、旅行日程では「1泊2日」や「2泊3日」が多い。

「1泊2日」の観光客16人の宿泊先は、高岡3人、高山2人、氷見2人のほか金沢、郡上、黒部、富山、中宮温泉などがあげられていた。「2泊3日」の観光客20人では、1泊目富山－2泊目富山の組み合わせが2人、そのほかはすべて1人であるが、金沢－金沢、金沢－富山、五箇山－富山、高山－高山、高山－氷見、黒部－高山、氷見－高山、氷見－富山、等の組み合わせが見られた。

(5) 甲信越地域居住の観光客の傾向

甲信越地域居住の観光客の特徴もほぼ中部地域と同じであるが、はじめて五箇山を訪れた人の割合が大きいこと、観光バスの利用が多いこと、「1泊2日」の旅行日程の観光客が多いことなどがあげられる。「1泊2日」の観光客の宿泊先は、和倉4人、金沢3人、高山、氷見がそれぞれ2人、下呂、能登、魚津がそれぞれ1人であった。

4 今後の課題

南砺市が2006年に作成した「南砺市観光マスタープラン」によると、①世界遺産を持つ五箇山は全国的なブランドとして発信することができる貴重な資源であること、②五箇山を売り込むターゲットを中高年に絞りマスコミ等でその魅力を伝えること、③個人旅行や少人数のグループ旅行者を満足させる企画を創ること、④世界遺産としての菅沼、相倉両集落の更なる純化を進めること（人々の日常生活がそこに息づいているような観光地にすること）、⑤東海北陸自動車道や能越自動車道の全線開通により金沢、高山、郡上八幡、八尾、能登などへのアクセスが向上するので、南砺市がその中継地となるように近隣の観光地と役割分担や歴史的なつながりをもう一度洗い出すこと、等を指摘している（南砺市観光課 2006：44-49）

五箇山は南砺市のみならず富山県にとっても重要な観光資源であるが、五箇山のように生活の場としての集落が観光の対象となっている地域では、「保存地区自体が博物館化されて、観光客が訪れるため、そこで生活している住民までが博物館の生きた展示物のように見えてくる」と荻野が言うように（荻野 2002：275-282）、住民は外部の視線にさらされながら生活している。さらに、保存地区で暮らす住民は、文化財保護法による規制に従わざるをえないため、自宅の改築さえ自由にできない状況にもある。そのような中で、住民も観光客も満足するような持続的な観光開発としてどのような形態が考えられるのだろうか。今回の調査で明らかになったことで、観光客の滞在時間が短いことがあげられる。さらに五箇山に宿泊する観光客は、7人ほどでほとんどいなかった。筆者は、滞在時間を延ばしかつ五箇山地域で宿泊可能の観光形態を探りたい。

西山は、五箇山のように地域住民の住む生活空間に訪問者を招き入れることによって成り立つ観光においては、ホスト社会の自立的な態度が強く求められている。すなわち訪問客とホスト・コミュニティとの交流関係を行うための「空間設計」、「演出設計」、「誘致設計」をホスト側から主体的に設計することが求められること、特に誘致設計においては、「いつ来てもらいたいのか」

という季節や時間の設計や「どのような人にきてもらいたいのか」という客層の設定、さらに「どのようなパイプによって誘致をはかるか」ということを地域住民が決定し行政や地元の観光協会を通して観光客に働きかけて行くことが重要であると述べている（西山 2001：31-34）。

五箇山では大型の観光バスが何台も来て、大型の宿泊施設に泊まるような観光形態は地域住民も望んでいない。そこで観光客層を「家族」に絞り、家族4人が2泊3日、集落内の民宿に宿泊し五箇山で楽しめるプランを提案したい。さらにこれらの家族が一種の会員のような形で五箇山をサポートしてくれる体制を築きたい。すなわち、会員登録した家族は、農業体験や自分が作った野菜などを宅配してもらえらるようなシステム作り、また合掌家屋の屋根の葺き替え時などにはボランティアで参加してもらい、第二のふるさととして五箇山を位置づけてもらいたい。会員制の観光客とは別に一般の観光客には滞在時間を延ばしてもらい五箇山の文化をより深く知ってもらうために合掌造りの建物やかつての生活について説明する公開施設が必要である。白川郷では、現在6箇所の公開施設がありサービス内容も異なる（黒田 2007：228-232）。五箇山でも民俗博物館はあるものの解説者が解説してくれるような公開施設をより充実する必要があるだろう。

謝辞

本研究は、平成20年度富山第一銀行奨学財団の助成を受けたものです。本研究を進めるにあたり多くの方々にお世話になりました。特に、五箇山観光協会、富山県観光課、アンケート調査に協力していただいた皆様に感謝申し上げます。

表1：アンケート

ご旅行アンケート(菅沼集落、相倉集落)

富山国際大学 現代社会学部

- 性別 1. 男 2. 女
年齢 1. 20歳未満 2. 20歳代 3. 30歳代 4. 40歳代 5. 50歳代 6. 60歳代 7. 70歳以上

問1 どちらから五箇山に来られましたか。(○は一つ)
1. 富山県内→市町村名 () 2. 富山県外→都道府県名 ()
3. 外国→国名 ()

問2 どなたといらっしゃいましたか。(○は一つ)
1. 自分ひとりで 2. 家族・親戚と 3. 友人と 4. 学校のグループで
5. 職場のグループで 6. 地域などの団体に 8. その他 ()

問3 ご自身を含めて何人でいらっしゃいましたか。 () 人

問4 旅行で五箇山を訪れたのは今回を含めて何回目ですか。(○は一つ)
1. はじめて 2. 2回目 3. 3回目 4. 4回目以上

問5 五箇山へ来るために利用した交通手段を教えてください。(○は一つ)
1. 自家用車 2. 路線バス 3. 観光バス 4. バイク 5. その他 ()

問6 五箇山での滞在時間はおよそどのくらいですか。(○は一つ)
1. 30分程度 2. 1時間程度 3. 2時間程度 4. 3～4時間(半日) 5. 1日
6. 1日以上(宿泊)

問7 五箇山ではどこに立ち寄りますか。(○はいくつでも)(調査地点で変える)
1. 相倉集落 2. 菅沼集落 3. 温泉に入る・泊まる 4. 道の駅上平(ささら館)
5. 岩瀬家 6. 村上家 7. 道の駅たいら(五箇山和紙の里) 8. その他
()

問8 五箇山で飲食や土産品購入をしましたか(する予定ですか)。
(1) 飲食 1. する→一人約()円 2. しない
(2) 土産品購入 1. する→一人約()円 2. しない

問9 五箇山へはどちらの方面から入ってきましたか。(○は一つ)
1. 富山・立山・黒部方面 2. 高岡・氷見方面 3. 和倉・能登方面
4. 金沢・加賀・東尋坊方面 5. 白川郷・高山方面 6. 新潟・長野方面

問10 五箇山を訪れた後、どちらの方面に向かいますか。(○は一つ)
1. 富山・立山・黒部方面 2. 高岡・氷見方面 3. 和倉・能登方面
4. 金沢・加賀・東尋坊方面 5. 白川郷・高山方面 6. 新潟・長野方面

問11 五箇山へ来る際に東海北陸自動車道を利用されましたか。(○は一つ)
1. はい →降りたインター名 () 2. いいえ

表3：調査地別アンケート結果

	菅沼地域(人)	%	相倉地域(人)	%	合計人数(人)	%
性別 (合計)	236		212		448	
男	132	55.9%	117	55.2%	249	55.6%
女	98	41.5%	90	42.5%	188	42.0%
無回答	6	2.5%	5	2.4%	11	2.5%
年齢 (合計)	236		212		448	
20歳未満	1	0.4%	2	0.9%	3	0.7%
20歳代	21	8.9%	21	9.9%	42	9.4%
30歳代	33	14.0%	24	11.3%	57	12.7%
40歳代	27	11.4%	31	14.6%	58	12.9%
50歳代	55	23.3%	52	24.5%	107	23.9%
60歳代	75	31.8%	58	27.4%	133	29.7%
70歳以上	21	8.9%	18	8.5%	39	8.7%
無回答	3	1.3%	6	2.8%	9	2.0%
問1 どちらから五箇山にこられましたか (合計)	236		212		448	
富山県内	36	15.3%	62	29.2%	98	21.9%
富山県外	196	83.1%	149	70.3%	345	77.0%
外県	3	1.3%	1	0.5%	4	0.9%
無回答	1	0.4%	0	0.0%	1	0.2%
問2 どなたといらっしゃいましたか (合計)	236		212		448	
自分ひとりで	6	2.5%	8	3.8%	14	3.1%
家族で	162	68.6%	146	68.9%	308	68.8%
友人と	47	19.9%	32	15.1%	79	17.6%
学校のグループで	0	0.0%	2	0.9%	2	0.4%
職場のグループで	10	4.2%	8	3.8%	18	4.0%
地域などの団体で	10	4.2%	14	6.6%	24	5.4%
その他	0	0.0%	1	0.5%	1	0.2%
無回答	1	0.4%	1	0.5%	2	0.4%
問3 ご自身を含めて何人でいらっしゃいましたか (合計)	236		212		448	
10人未満	218	92.4%	188	88.7%	406	90.6%
10～19人	10	4.2%	8	3.8%	18	4.0%
20人以上	6	2.5%	15	7.1%	21	4.7%
無回答	2	0.8%	1	0.5%	3	0.7%
問4 旅行で五箇山を訪れたのは今回を含めて何回目ですか (合計)	236		212		448	
はじめて	151	64.0%	133	62.7%	284	63.4%
2回目	35	14.8%	32	15.1%	67	15.0%
3回目	17	7.2%	22	10.4%	39	8.7%
4回以上	32	13.6%	25	11.8%	57	12.7%
無回答	1	0.4%	0	0.0%	1	0.2%
問5 五箇山へ来るために利用した交通手段を教えてください (合計)	236		212		448	
自家用車	201	85.2%	165	77.8%	366	81.7%
路線バス	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
観光バス	25	10.6%	40	18.9%	65	14.5%
バイク	0	0.0%	2	0.9%	2	0.4%
その他	9	3.8%	5	2.4%	14	3.1%
無回答	1	0.4%	0	0.0%	1	0.2%
問6 五箇山での滞在時間はおよそどのくらいですか (合計)	236		212		448	
30分程度	45	19.1%	37	17.5%	82	18.3%
1時間程度	111	47.0%	101	47.6%	212	47.3%
2時間程度	43	18.2%	47	22.2%	90	20.1%
3～4時間程度	24	10.2%	22	10.4%	46	10.3%
1日	8	3.4%	2	0.9%	10	2.2%
1日以上(宿泊)	4	1.7%	3	1.4%	7	1.6%
無回答	1	0.4%	0	0.0%	1	0.2%
問7 五箇山ではどこに立ち寄りますか(複数回答可) (合計)	400		384		784	
相倉集落	60	25.4%	212	100.0%	272	60.7%
菅沼集落	236	100.0%	70	33.0%	306	68.3%
温泉に入る・泊まる	20	8.5%	18	8.5%	38	8.5%
道の駅上平(ささら館)	18	7.6%	13	6.1%	31	6.9%
岩瀬家	15	6.4%	7	3.3%	22	4.9%
村上家	10	4.2%	16	7.5%	26	5.8%
道の駅平(五箇山和紙の里)	20	8.5%	27	12.7%	47	10.5%
その他	21	8.9%	21	9.9%	42	9.4%
問8-1 五箇山で飲食しましたか(する予定ですか) (合計)	236		212		448	
飲食する	139	58.9%	109	51.4%	248	55.4%
飲食しない	88	37.3%	90	42.5%	178	39.7%
無回答	9	3.8%	13	6.1%	22	4.9%
問8-2 飲食に使用する金額 (合計)	139		109		248	
1000円未満	37	26.6%	10	9.2%	47	19.0%
1000円以上2000円未満	57	41.0%	60	55.0%	117	47.2%
2000円以上3000円未満	17	12.2%	11	10.1%	28	11.3%
3000円以上	12	8.6%	20	18.3%	32	12.9%
金額無回答	16	11.5%	8	7.3%	24	9.7%
問8-3 五箇山で土産物を買いましたか(する予定ですか) (合計)	236		212		448	
購入する	141	59.7%	123	58.0%	264	58.9%
購入しない	86	36.4%	77	36.3%	163	36.4%
無回答	9	3.8%	12	5.7%	21	4.7%
問8-4 お土産に使用する金額 (合計)	141		123		264	
1000円未満	19	13.5%	20	16.3%	39	14.8%
1000円以上2000円未満	51	36.2%	44	35.8%	95	36.0%
2000円以上3000円未満	37	26.2%	27	21.9%	64	25.1%
3000円以上	26	18.4%	28	22.8%	54	20.5%
金額無回答	8	5.7%	7	5.7%	15	5.7%
問9 五箇山へはどちらの方面から入ってきましたか (合計)	236		212		448	
富山・立山・黒部方面	51	21.6%	65	30.7%	116	25.9%
高岡・氷見方面	19	8.1%	29	13.7%	48	10.7%
和倉・能登方面	4	1.7%	1	0.5%	5	1.1%
金沢・加賀・東尋坊方面	40	16.9%	34	16.0%	74	16.5%
白川郷・高山方面	110	46.6%	69	32.5%	179	40.0%
新潟・長野方面	6	2.5%	6	2.8%	12	2.7%
無回答	6	2.5%	8	3.8%	14	3.1%
問10 五箇山を訪れた後、どちら方面に向かいますか (合計)	236		212		448	
富山・立山・黒部方面	53	22.5%	52	24.5%	105	23.4%
高岡・氷見方面	29	12.3%	44	20.8%	73	16.3%
和倉・能登方面	10	4.2%	4	1.9%	14	3.1%
金沢・加賀・東尋坊方面	46	19.5%	31	14.6%	77	17.2%
白川郷・高山方面	85	36.0%	68	32.1%	153	34.2%
新潟・長野方面	1	0.4%	4	1.9%	5	1.1%
無回答	12	5.1%	9	4.2%	21	4.7%
問11 五箇山へ来る際に東海北陸自動車道を利用されましたか (合計)	236		212		448	
はい	182	77.1%	132	62.3%	314	70.1%
いいえ	49	20.8%	75	35.4%	124	27.7%
無回答	5	2.1%	5	2.4%	10	2.2%
問12 次の訪問地へ向かう際に東海北陸自動車道を利用しますか (合計)	236		212		448	
はい	160	67.8%	131	61.8%	291	65.0%
いいえ	70	29.7%	77	36.3%	147	32.8%
無回答	6	2.5%	4	1.9%	10	2.2%
問13 今回のご旅行の日程についておたずねします (合計)	236		212		448	
1泊2日	115	48.7%	117	55.2%	232	51.8%
2泊3日	79	33.5%	53	25.0%	132	29.5%
3泊4日	32	13.6%	34	16.0%	66	14.7%
4泊以上	3	1.3%	5	2.4%	8	1.8%
無回答	5	2.1%	2	0.9%	7	1.6%
無回答	2	0.8%	1	0.5%	3	0.7%

表 4：居住地別観光客数（アンケート回答者）

県内居住地	人数(人)
富山市	46
高岡市	13
黒部市	7
射水市	5
氷見市	5
南砺市	3
朝日町	2
小矢部市	1
上市町	1
砺波市	1
入善町	1
立山町	1
魚津市	1
無記入	11
富山県内合計	98

国外居住地	人数(人)
台湾	1
中国	1
イギリス	1
フランス	1
国外合計	4

地区	県外居住地	人数(人)
中部	愛知県	80
	石川県	47
	岐阜県	33
	静岡県	18
	福井県	10
	小計	188
関西	大阪府	19
	三重県	12
	滋賀県	11
	兵庫県	6
	京都府	5
	奈良県	2
	和歌山県	2
	小計	57
関東	東京都	18
	神奈川県	11
	埼玉県	9
	群馬県	6
	千葉県	6
	茨城県	1
	栃木県	1
小計	52	
甲信越	長野県	16
	新潟県	7
	山梨県	2
小計	25	
九州	福岡県	4
	鹿児島県	3
	熊本県	2
	宮崎県	1
	長崎県	1
小計	11	
東北	宮城県	4
	山形県	2
	福島県	2
	秋田県	1
小計	9	
中国	岡山県	1
	鳥取県	1
小計	2	
四国	香川県	1
	小計	1
県外合計		345

註：地区区分に関しては、日本観光協会の地区区分に従った（日本観光協会 2005）

表5：入込数データ（菅沼駐車場、2008年11月2日）

地区		都道府県	～10:00	10:00～11:00	11:00～12:00	12:00～13:00	13:00～14:00	14:00～15:00	15:00～16:00	計
富山	富山県		46	33	65	29	67	48	39	327
	小計		(46)	(33)	(65)	(29)	(67)	(48)	(39)	(327)
中部	愛知県		29	10	83	18	41	116	78	375
	石川県		12	37	25	25	46	24	27	196
	岐阜県		15	14	49	13	50	34	43	218
	静岡県		4	4	2	7	8	20	54	99
	福井県		7	5	21	5	9	18	14	79
	小計		(67)	(70)	(180)	(68)	(154)	(212)	(216)	(967)
関西	大阪府		3	10	5	0	6	12	15	51
	三重県		0	10	9	3	13	53	9	97
	滋賀県		3	0	0	0	6	3	0	12
	兵庫県		3	3	5	5	0	10	2	28
	京都府		4	7	0	6	3	0	3	23
	和歌山県		3	0	0	0	0	0	0	3
	小計		(16)	(30)	(19)	(14)	(28)	(78)	(29)	(214)
関東	東京都		0	10	11	4	11	6	52	94
	神奈川県		0	2	3	4	4	2	0	15
	埼玉県		0	0	1	2	6	2	3	14
	群馬県		0	5	3	0	0	3	0	11
	千葉県		0	2	0	0	0	1	2	5
	栃木県		0	4	0	0	0	0	0	4
	小計		(0)	(23)	(18)	(10)	(21)	(14)	(57)	(143)
甲信越	長野県		0	33	5	4	0	6	29	77
	新潟県		6	9	5	2	3	3	6	34
	山梨県		0	0	0	2	0	3	0	5
小計		(6)	(42)	(10)	(8)	(3)	(12)	(35)	(116)	
九州	福岡県		0	0	0	2	1	0	0	3
	小計		(0)	(0)	(0)	(2)	(1)	(0)	(0)	(3)
東北	山形県		0	0	0	0	0	0	3	3
	小計		(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(3)	(3)
中国	岡山県		0	0	3	0	0	0	0	3
	鳥取県		0	0	0	2	0	0	0	2
	広島県		0	0	0	0	5	0	0	5
	小計		(0)	(0)	(3)	(2)	(5)	(0)	(0)	(10)
四国	香川県		0	0	0	1	0	0	0	1
	愛媛県		0	3	0	0	4	0	0	7
	小計		(0)	(3)	(0)	(1)	(4)	(0)	(0)	(8)
北海道	北海道		0	0	0	0	2	0	0	2
	小計		(0)	(0)	(0)	(0)	(2)	(0)	(0)	(2)
合計			135	201	295	134	285	364	379	1,793

註：10時以前の人数は自家用車の大きさからの推定値

表6：入込数データ（相倉駐車場、2008年11月2日）

地区		都道府県	～10:30	10:30～11:30	11:30～12:00	12:00～13:00	13:00～14:00	14:00～15:00	15:00～16:00	計
富山	富山県		103	59	35	70	102	71	104	544
	小計		(103)	(59)	(35)	(70)	(102)	(71)	(104)	(544)
中部	愛知県		63	29	97	118	107	72	75	561
	石川県		14	18	29	12	27	38	45	183
	岐阜県		30	19	3	51	51	27	10	191
	静岡県		11	18	2	7	24	8	2	72
	福井県		52	6	4	19	29	10	10	130
	小計		(170)	(90)	(135)	(207)	(238)	(155)	(142)	(1137)
関西	大阪府		7	6	3	3	18	4	47	88
	三重県		7	2	4	1	6	6	2	28
	滋賀県		3	0	0	4	12	0	0	19
	兵庫県		7	8	8	5	1	7	8	44
	京都府		12	6	0	0	5	2	30	55
	奈良県		0	2	0	0	0	0	2	4
	和歌山県		0	0	0	0	2	0	0	2
	小計		(36)	(24)	(15)	(13)	(44)	(19)	(89)	(240)
関東	東京都		0	9	3	8	12	4	0	36
	神奈川県		13	1	2	5	28	5	1	55
	埼玉県		0	6	0	1	2	3	3	15
	群馬県		6	6	0	1	0	0	0	13
	千葉県		0	6	0	4	2	0	2	14
	小計		(19)	(28)	(5)	(19)	(44)	(12)	(6)	(133)
甲信越	長野県		3	6	0	60	36	78	2	183
	新潟県		12	19	6	14	14	7	6	78
	山梨県		0	0	2	2	0	0	0	4
	小計		(15)	(25)	(8)	(76)	(50)	(83)	(8)	(265)
九州	熊本県		0	0	0	0	0	4	0	4
	小計		(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(4)	(0)	(4)
東北	山形県		0	3	0	0	0	0	0	3
	福島県		0	0	0	0	3	0	0	3
	秋田県		6	0	0	0	0	0	0	6
小計		(6)	(3)	(0)	(0)	(3)	(0)	(0)	(12)	
中国	岡山県		0	0	3	0	0	4	0	7
	小計		(0)	(0)	(3)	(0)	(0)	(4)	(0)	(7)
四国	香川県		0	1	0	0	3	0	0	4
	愛媛県		0	8	0	2	0	0	0	10
	小計		(0)	(9)	(0)	(2)	(3)	(0)	(0)	(14)
合計			349	238	201	387	484	348	349	2,356

註：10時30分以前の人数は自家用車の大きさからの推定値

図 2-a : 居住地別男女構成

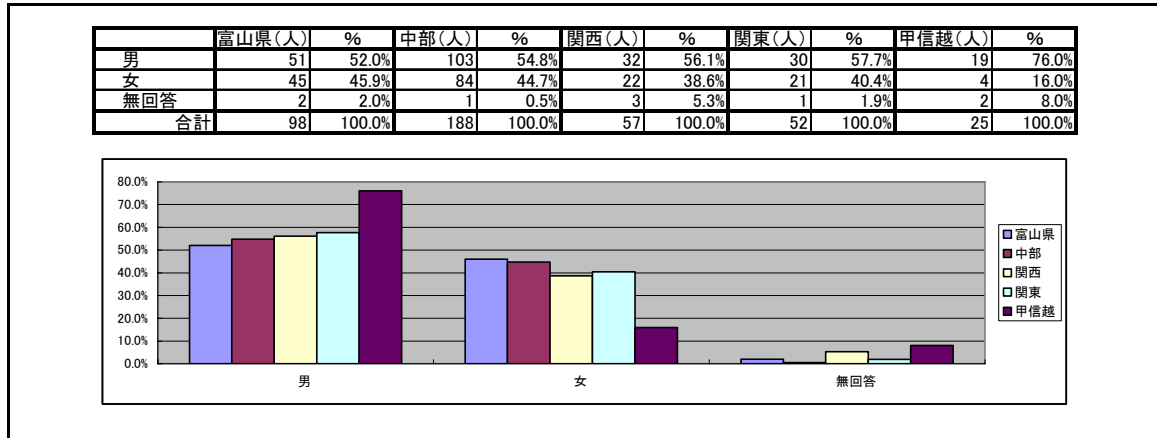


図 2-b : 居住地別年齢構成

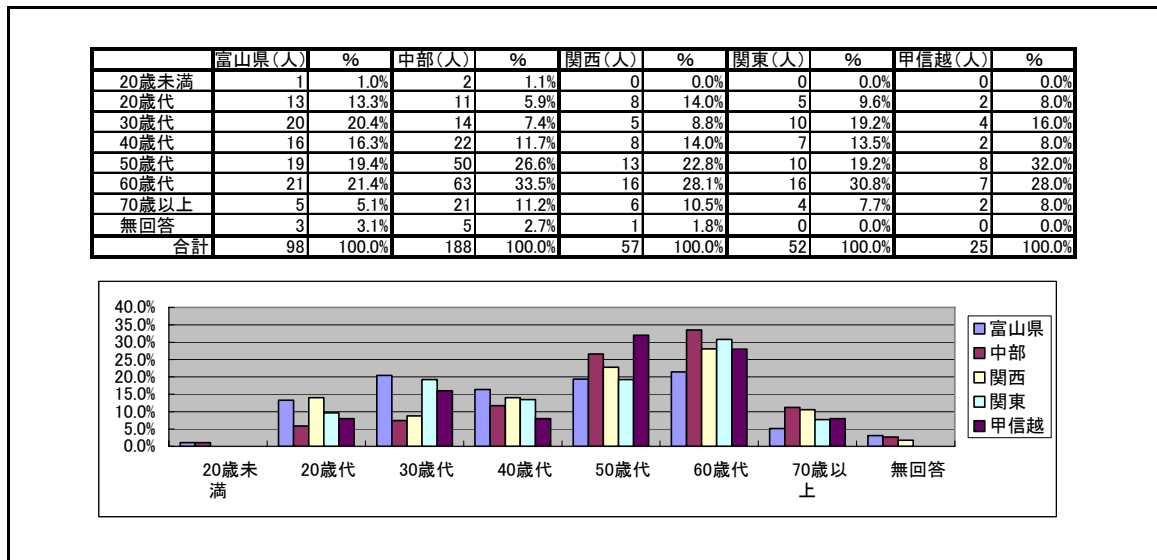


図 2-c : 居住地別「問2 どなたといらっしゃるいましたか」

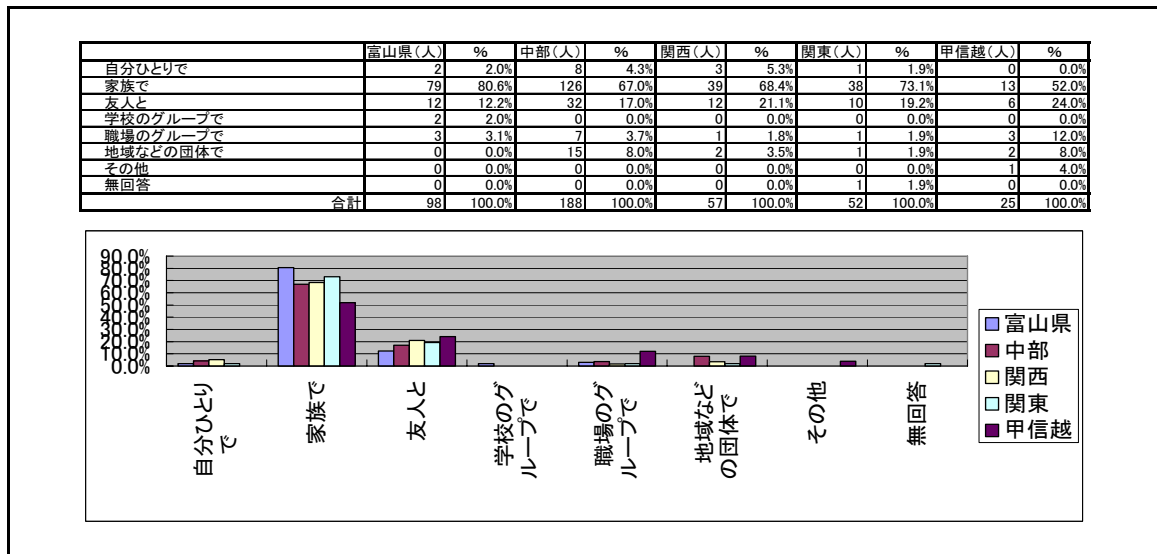


図 2-d : 居住地別「問 3 ご自身を含めて何人でいらっしゃいましたか」

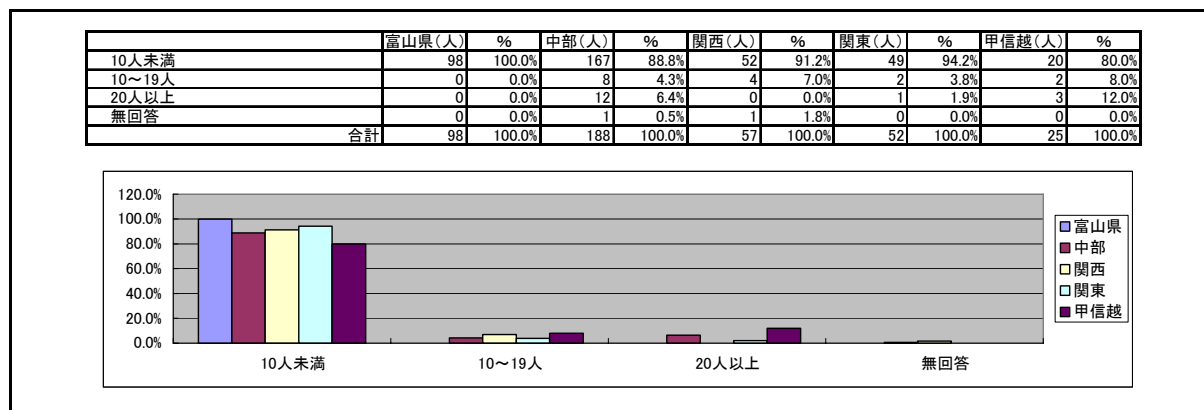


図 2-e : 居住地別「問 4 旅行で五箇山を訪れたのは今回を含めて何回目ですか」

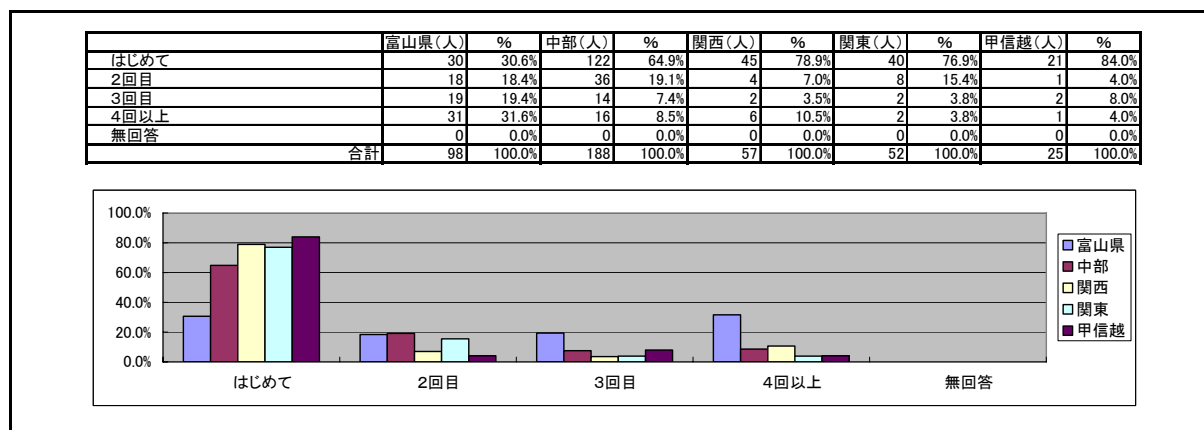


図 2-f : 居住地別「問 5 五箇山へ来るために利用した交通手段を教えてください」

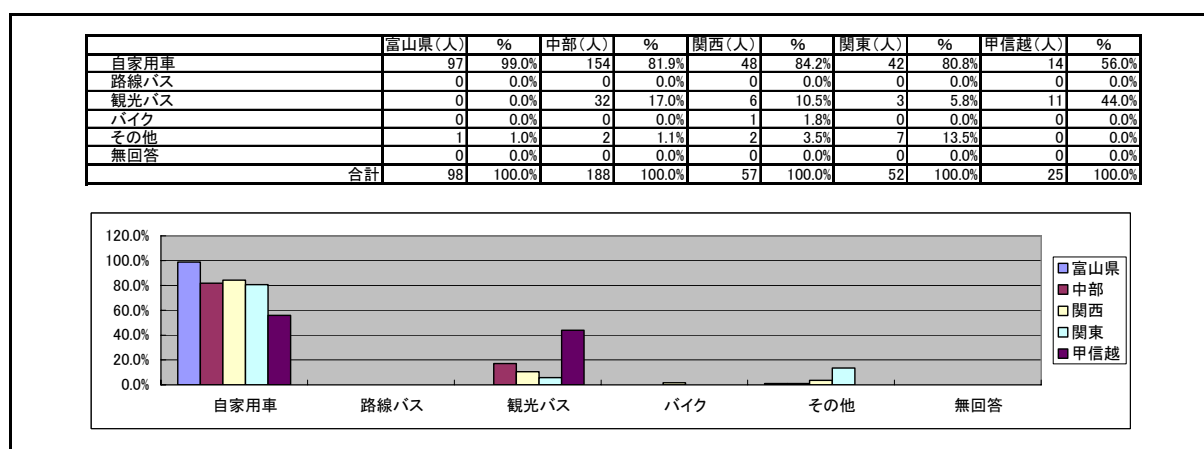


図 2-g : 居住地別「問 6 五箇山での滞在時間はおおよそどのくらいですか」

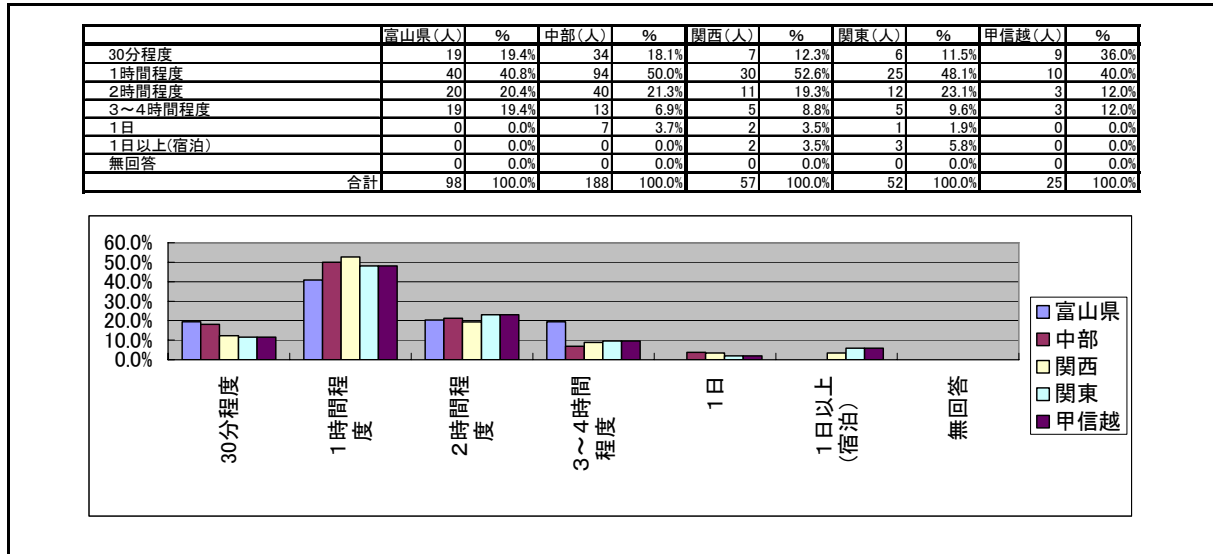


図 2-h : 居住地別「問 7 五箇山ではどこに立ち寄りますか（複数解答可）」

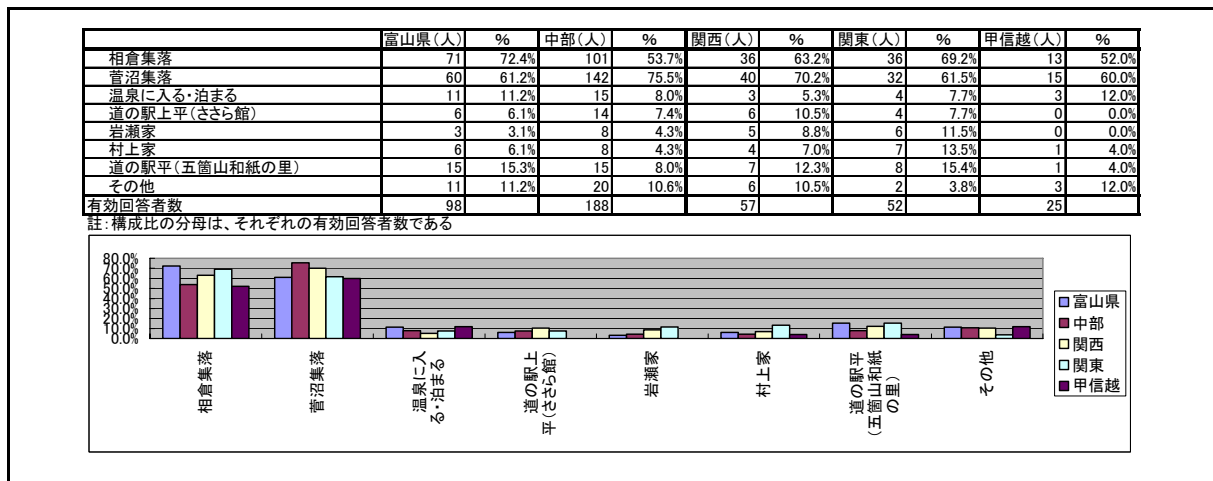


図 2-i : 居住地別「問 8-1 五箇山で飲食しましたか（する予定ですか）」

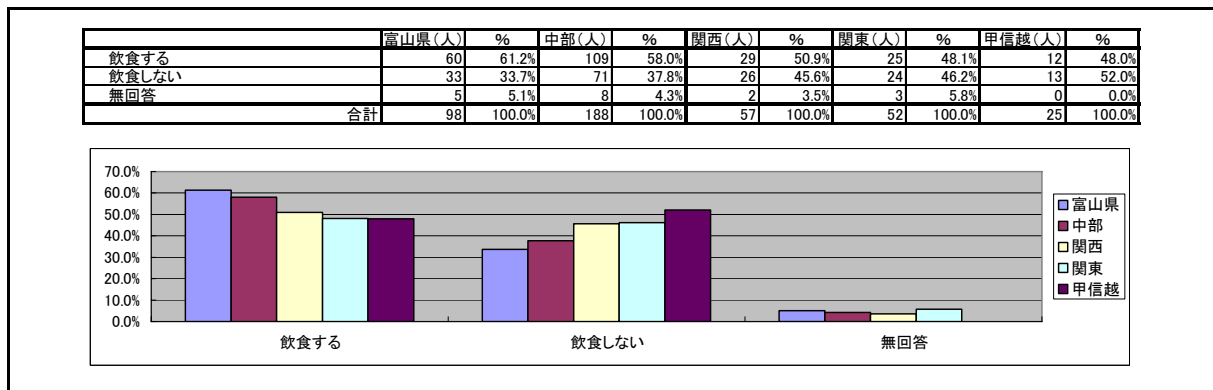


図 2-j : 居住地別「問 8-2 飲食に使用する金額」

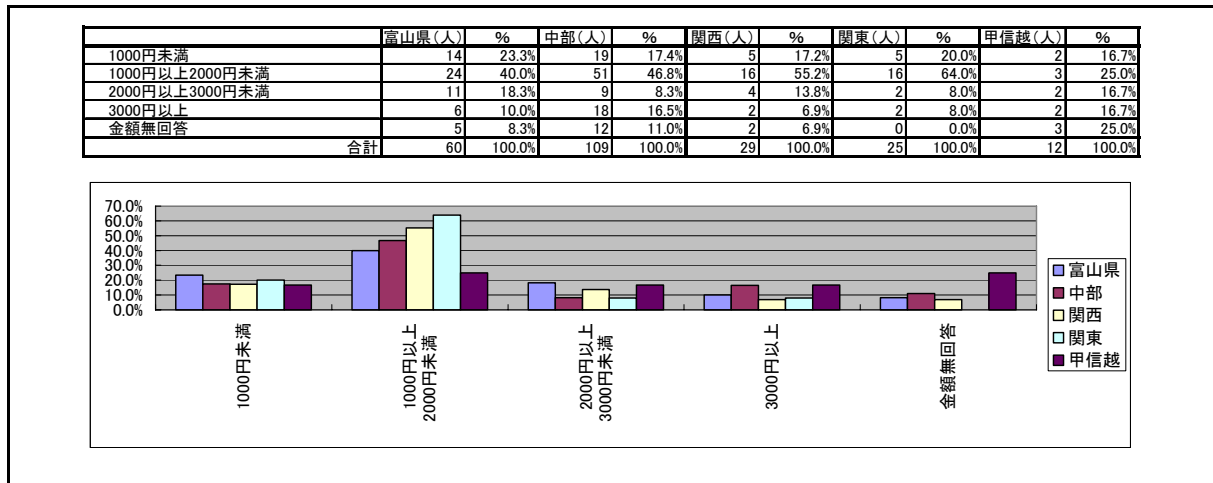


図 2-k : 居住地別「問 8-3 五箇山でお土産を購入しましたか(する予定ですか)」

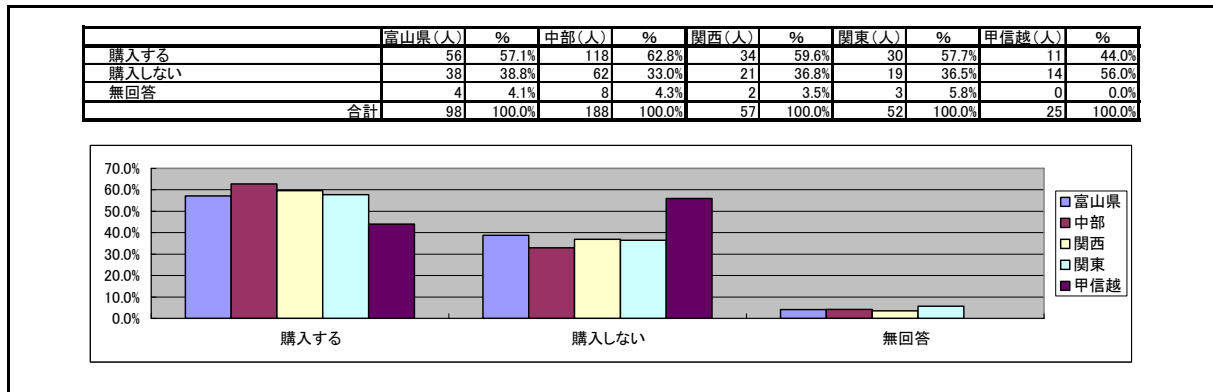


図 2-l : 居住地別「問 8-4 お土産に使用する金額」

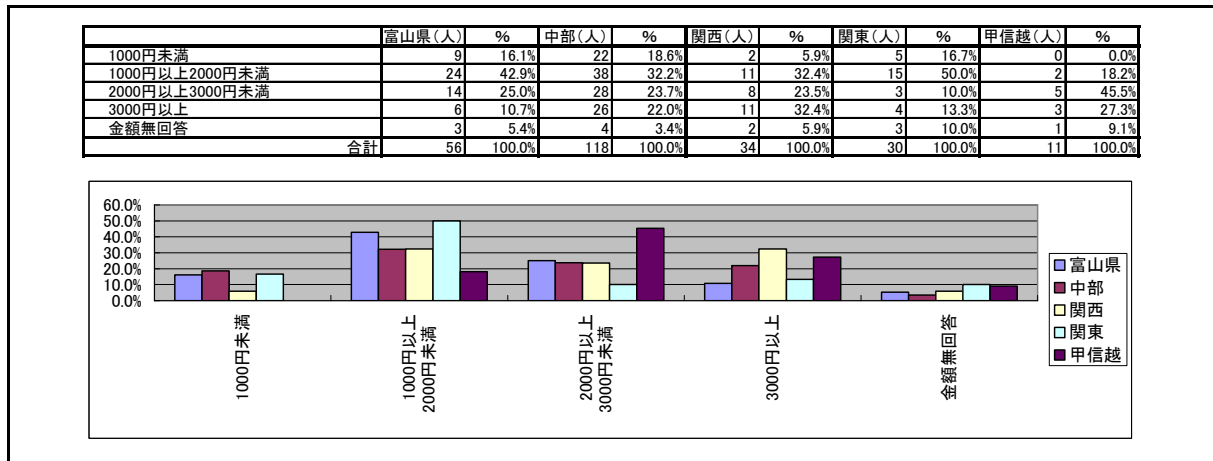


図 2-m : 居住地別「問 9 五箇山へはどちらの方面から入ってきましたか」

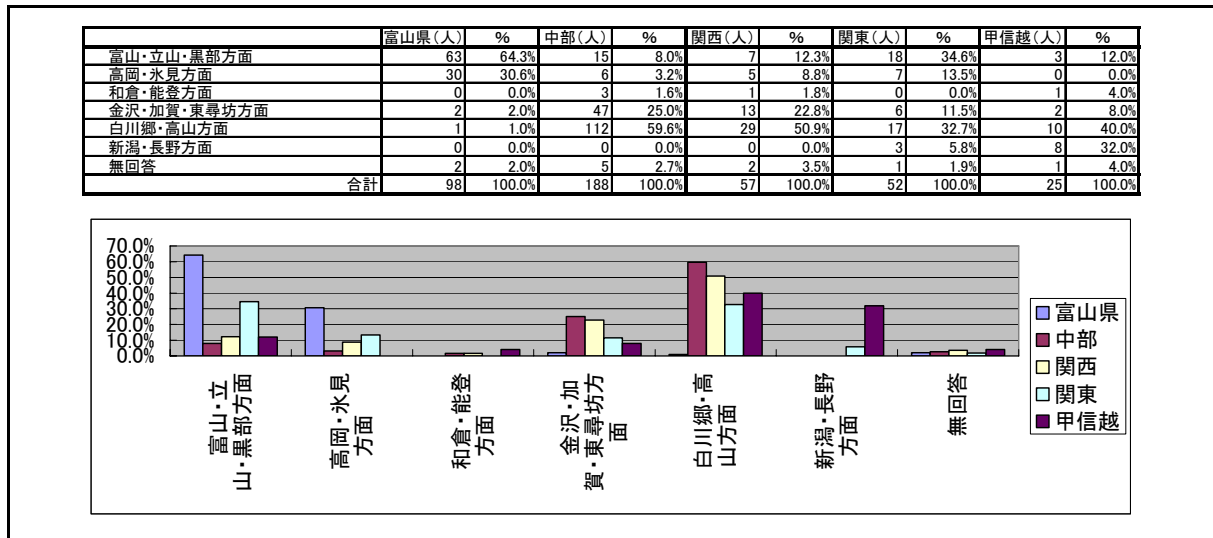


図 2-n : 居住地別「問 10 五箇山を訪れた後、どちらの方面に向かいますか」

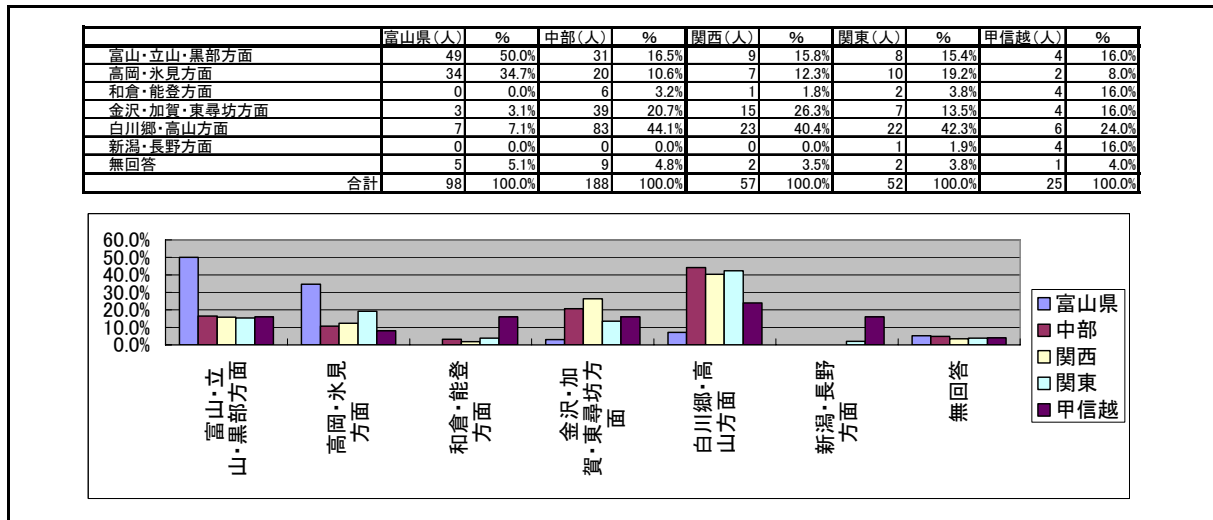


図 2-o : 居住地別「問 11 五箇山へ来る際に東海北陸自動車道を利用されましたか」

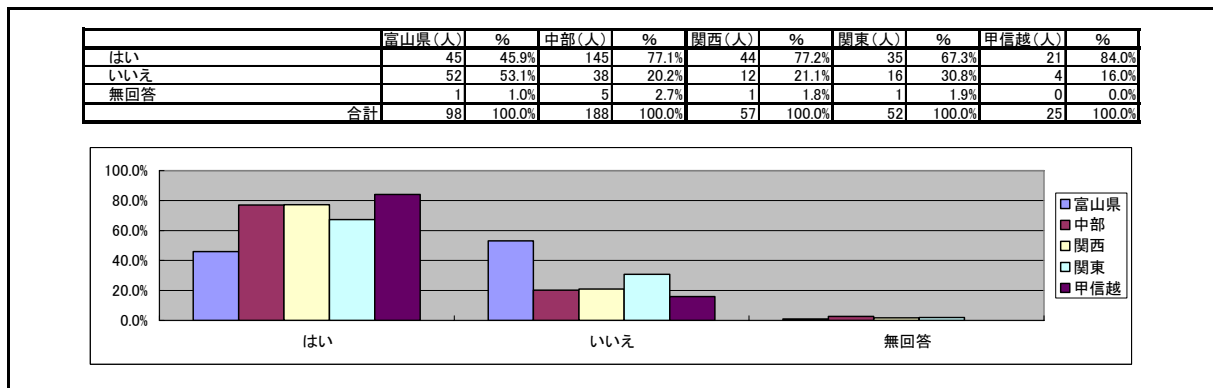


図 2-p : 居住地別「問 12 次の訪問地へ向かう際に東海北陸自動車道を利用されますか」

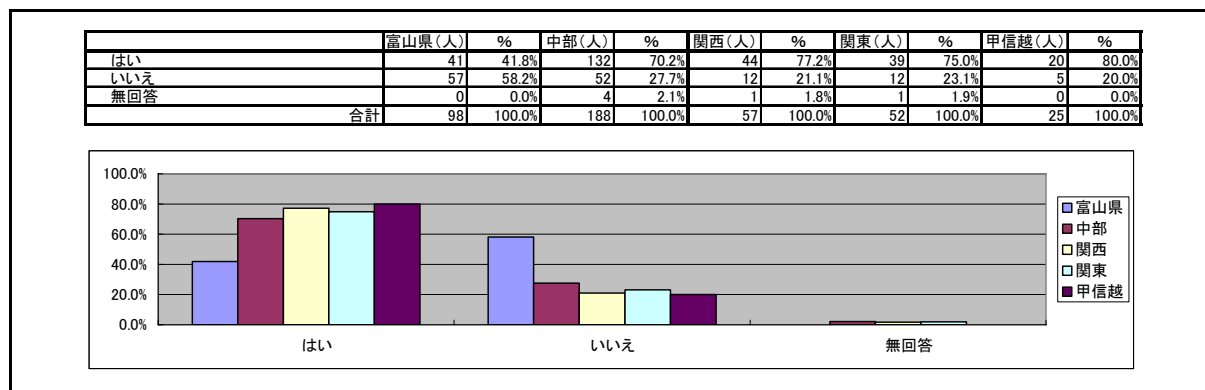


図 2-q : 居住地別「問 13 今回の旅行の日程についてお尋ねします」

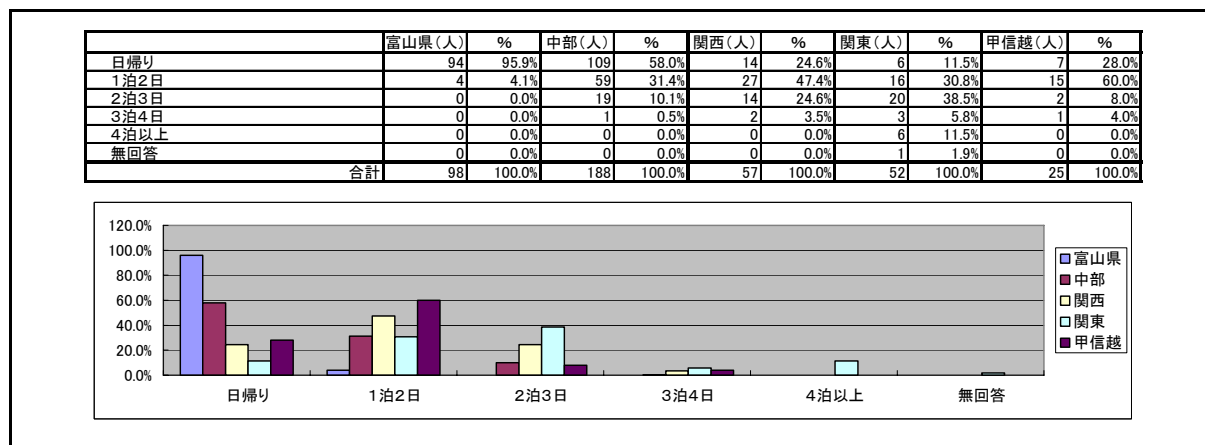


図 3-a : 年齢別男女構成

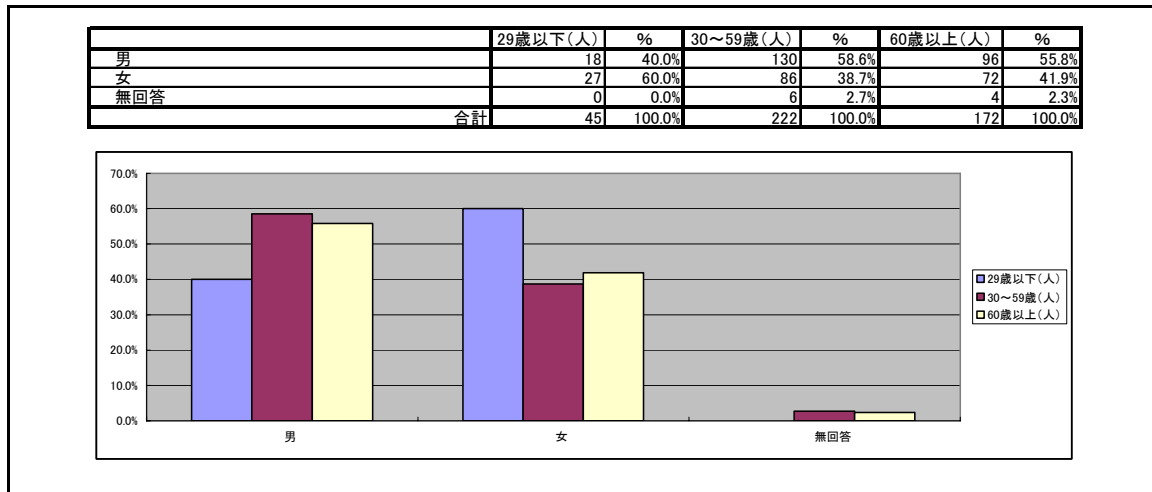


図 3-b : 年齢別「問1 どちらから五箇山に来られましたか」

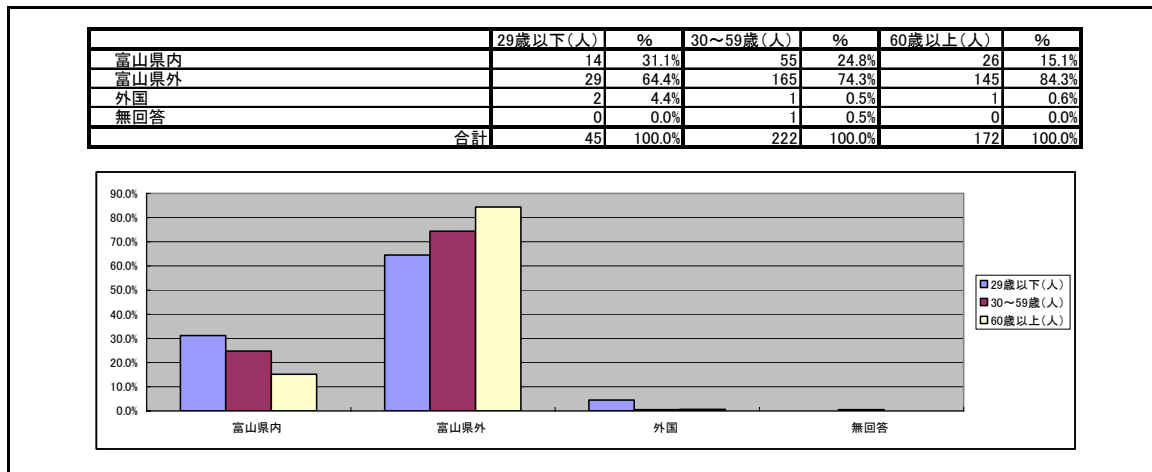


図 3-c : 年齢別「問2 どなたといらっしやいましたか」

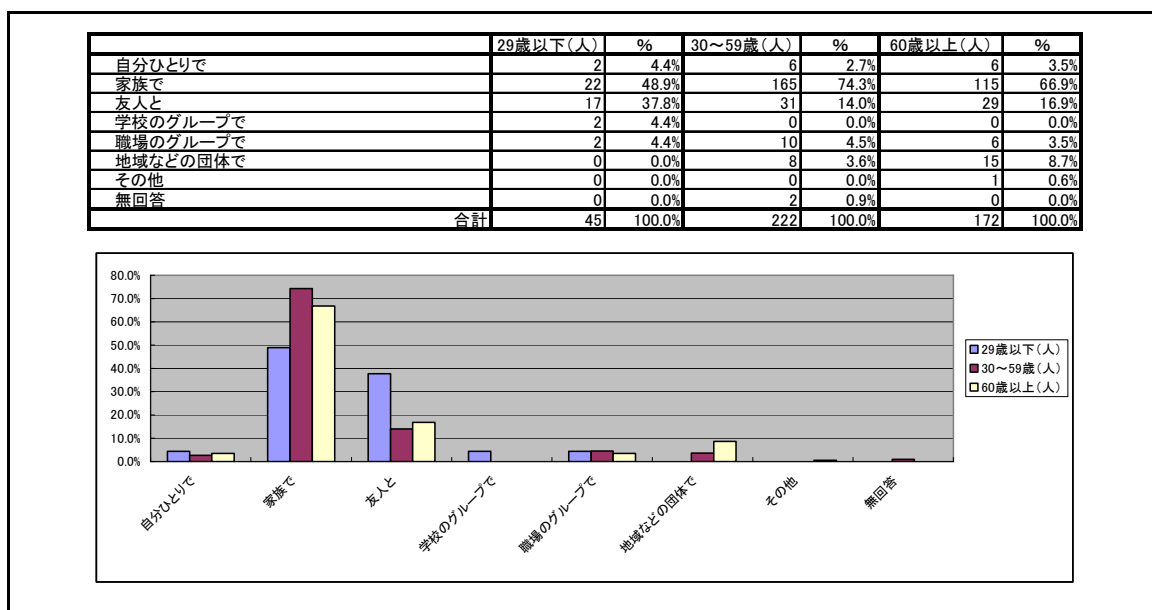


図 3-d : 年齢別「問3 ご自身を含めて何人でいらっしゃいましたか」

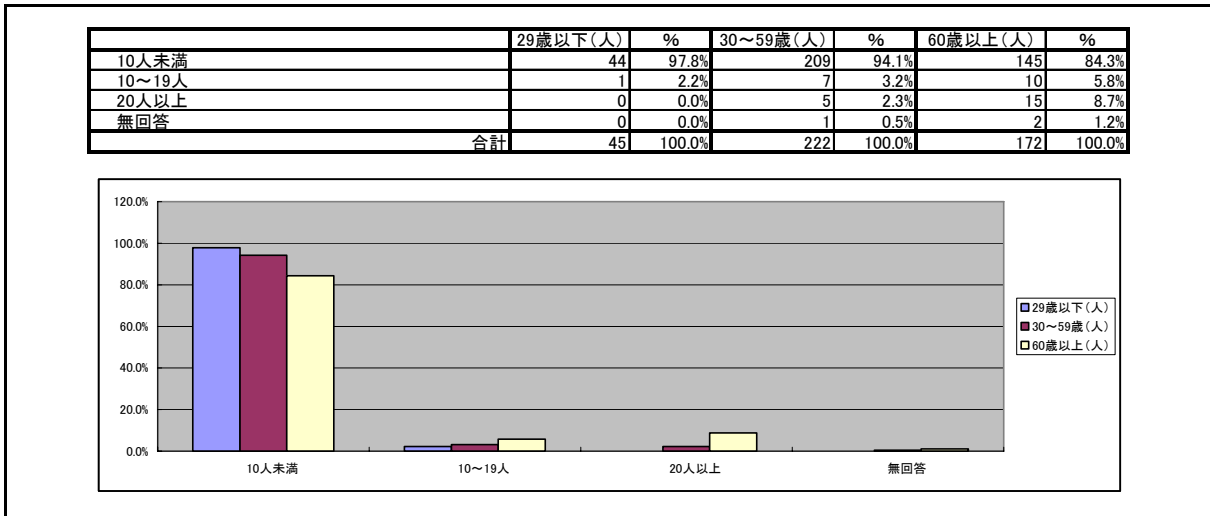


図 3-e : 年齢別「問4 旅行で五箇山を訪れたのは今回を含めて何回目ですか」

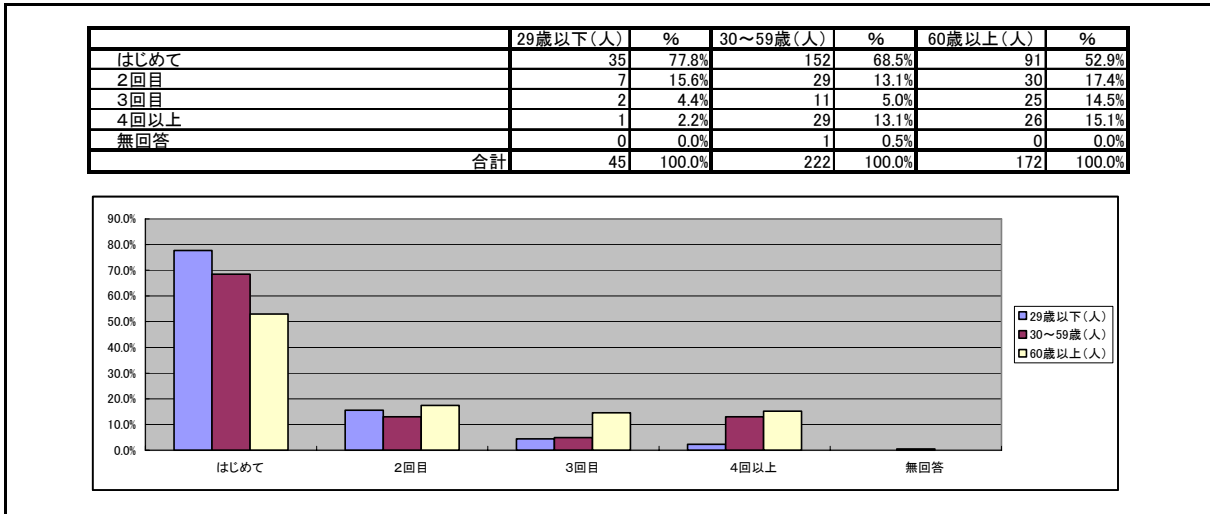


図 3-f : 年齢別「問5 五箇山へ来るために利用した交通手段を教えてください」

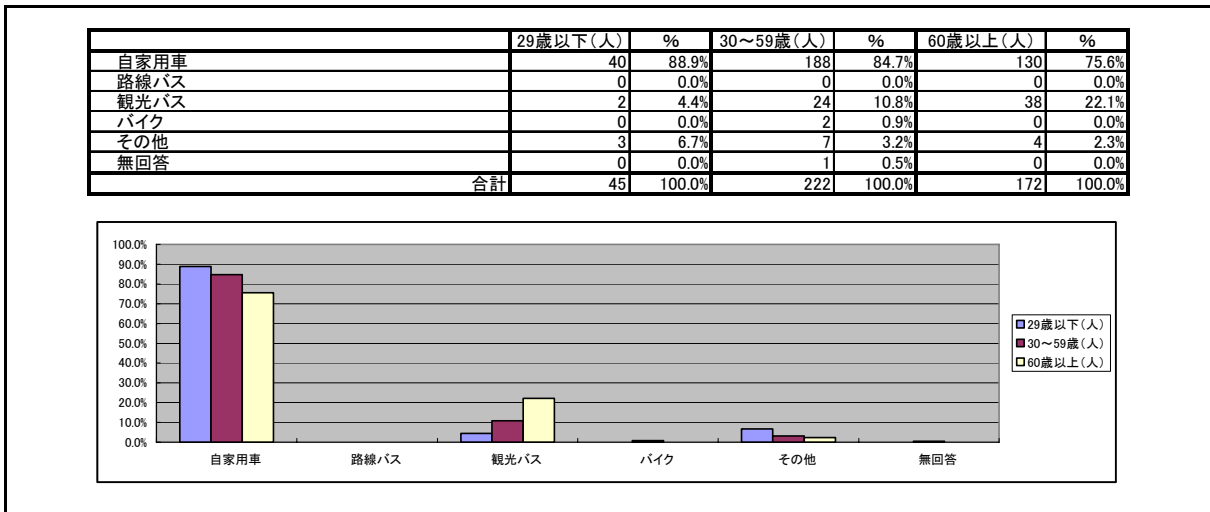


図 3-g : 年齢別「問 6 五箇山での滞在時間はおおよそどのくらいですか」

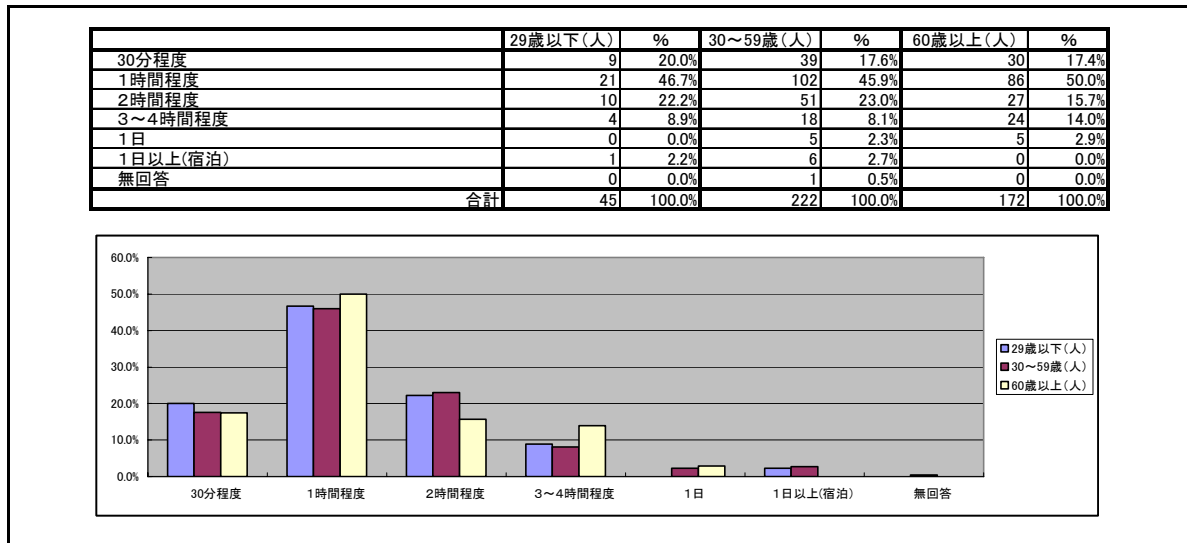


図 3-h : 年齢別「問 7 五箇山ではどこに立ち寄りますか（複数解答可）」

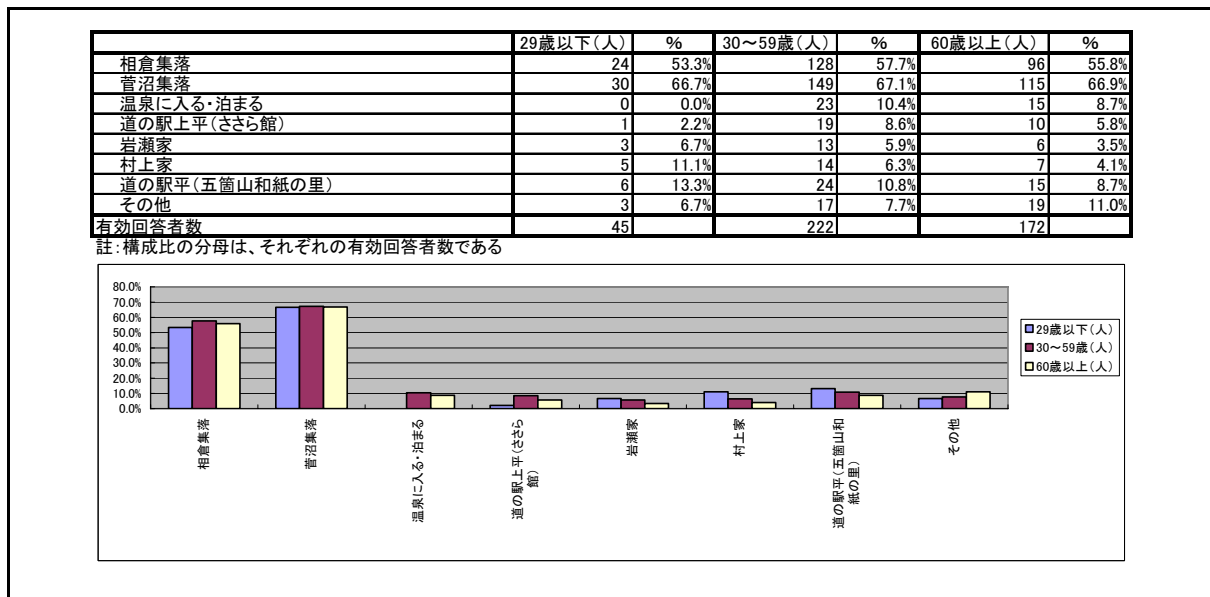


図 3-i : 年齢別「問 8-1 五箇山で飲食しましたか（する予定ですか）」

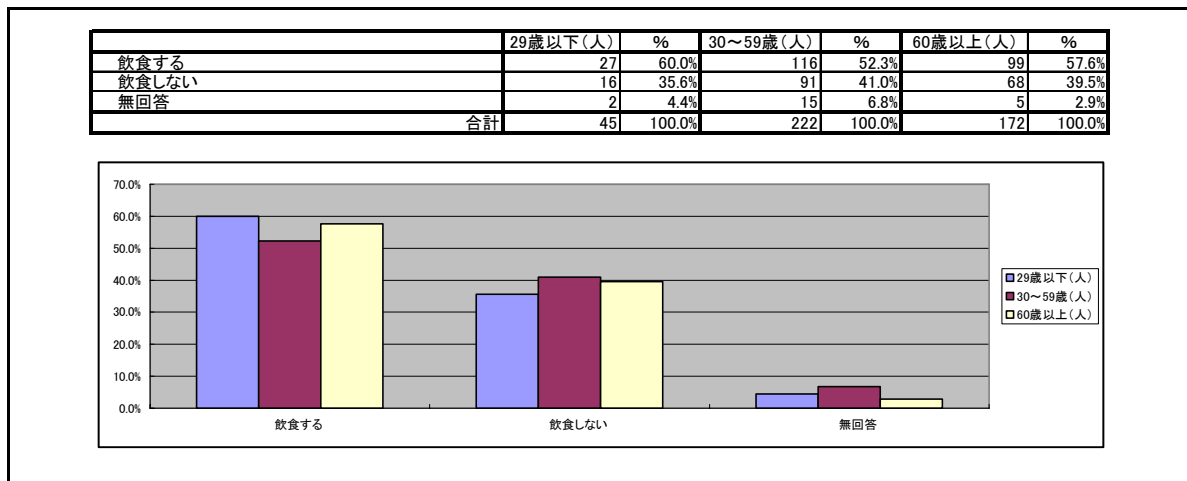


図 3-j : 年齢別「問 8-2 飲食に使用する金額」

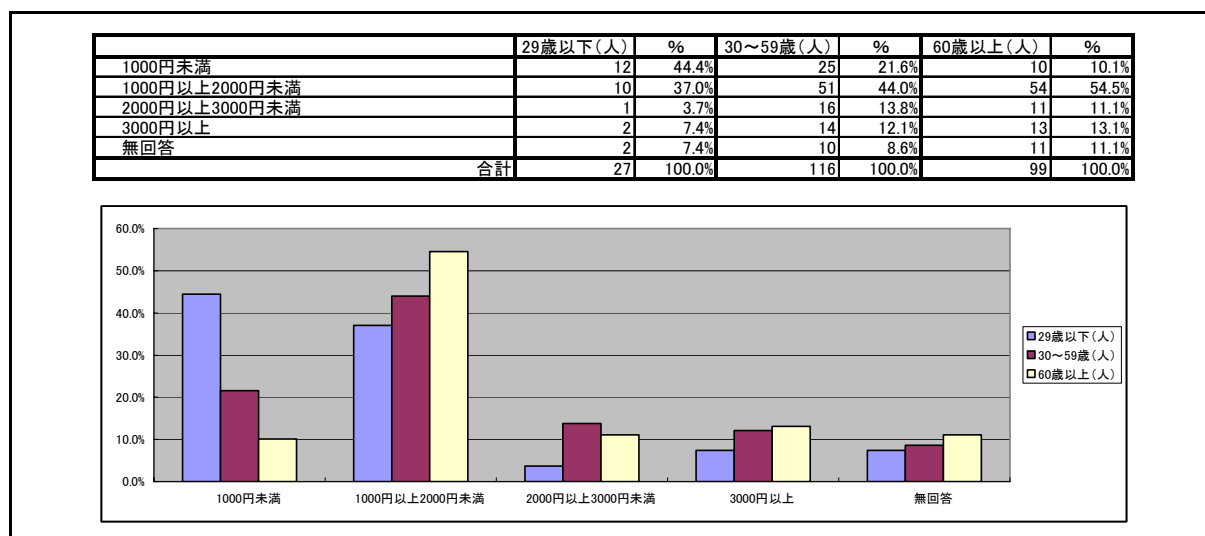


図 3-k : 年齢別「問 8-3 五箇山でお土産を購入しましたか (する予定ですか)」

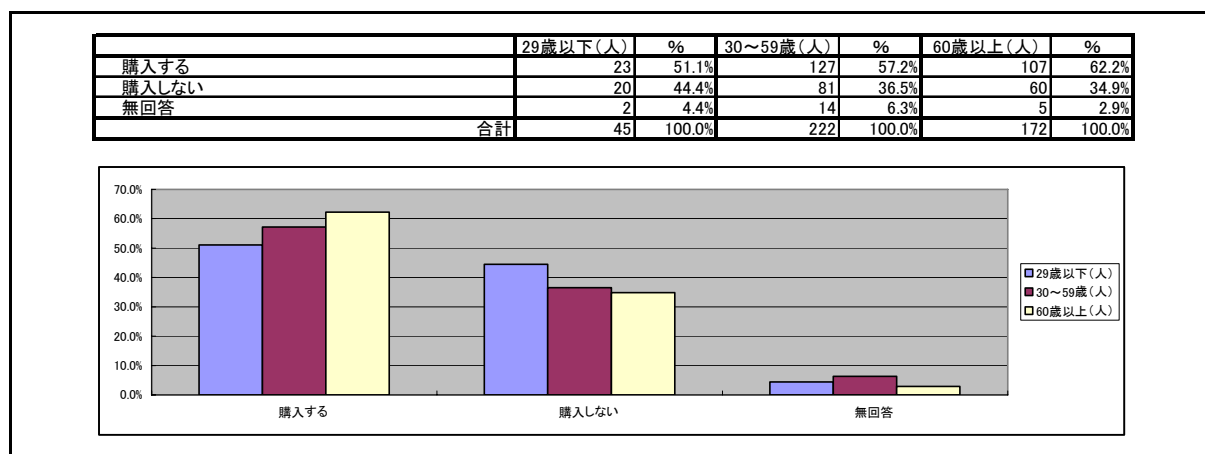


図 3-l : 年齢別「問 8-4 お土産に使用する金額」

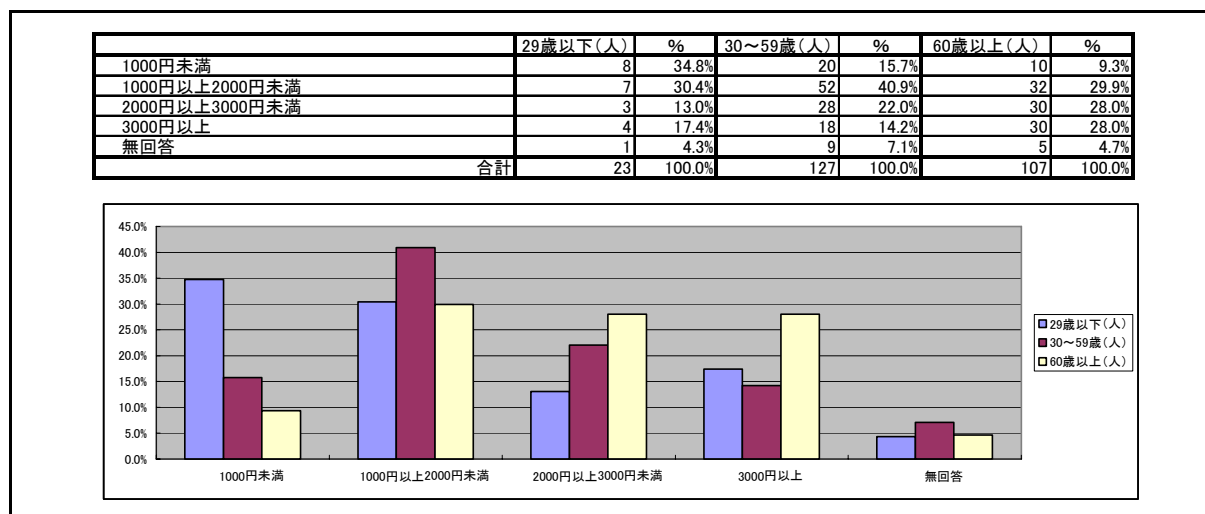


図 3-m : 年齢別「問 11 五箇山へ来る際に東海北陸自動車道を利用されましたか」

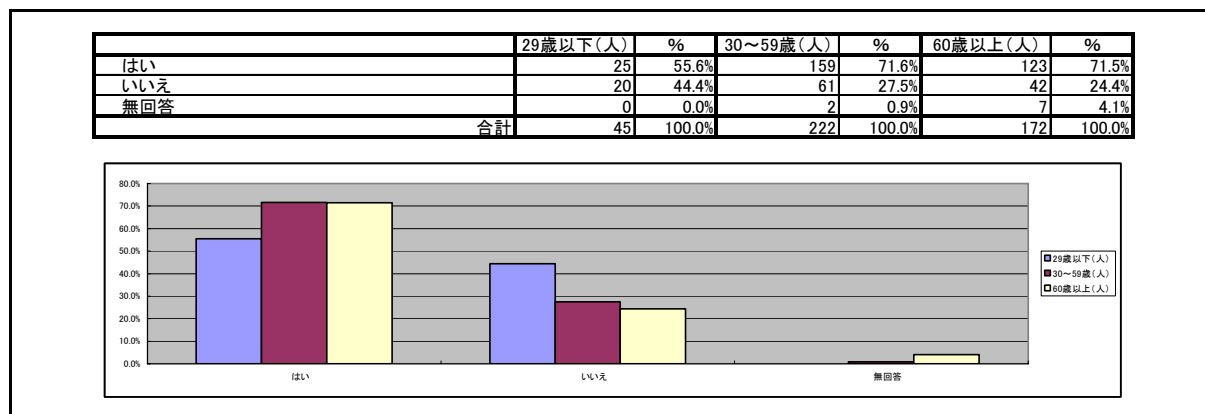


図 3-n : 年齢別「問 12 次の訪問地へ向かう際に東海北陸自動車道を利用されますか」

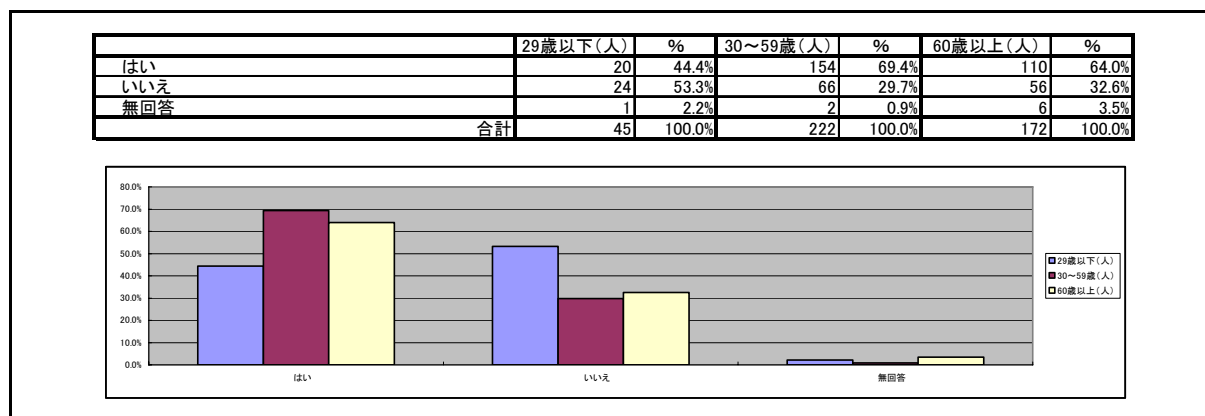


図 3-o : 年齢別「問 13 今回の旅行の日程についてお尋ねします」

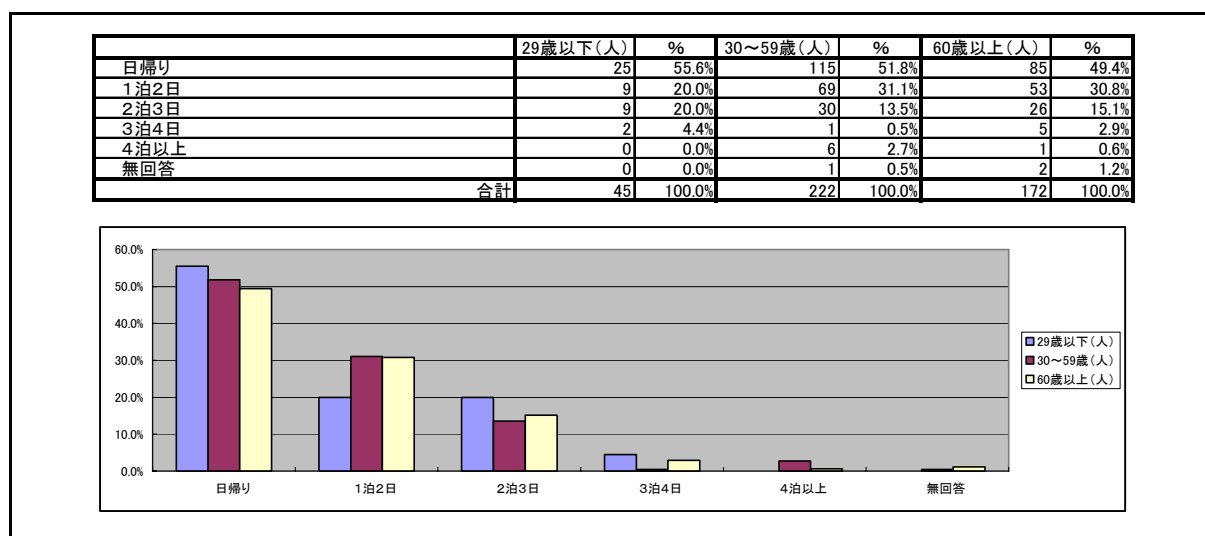


図 4-a : 訪問回数別滞在時間

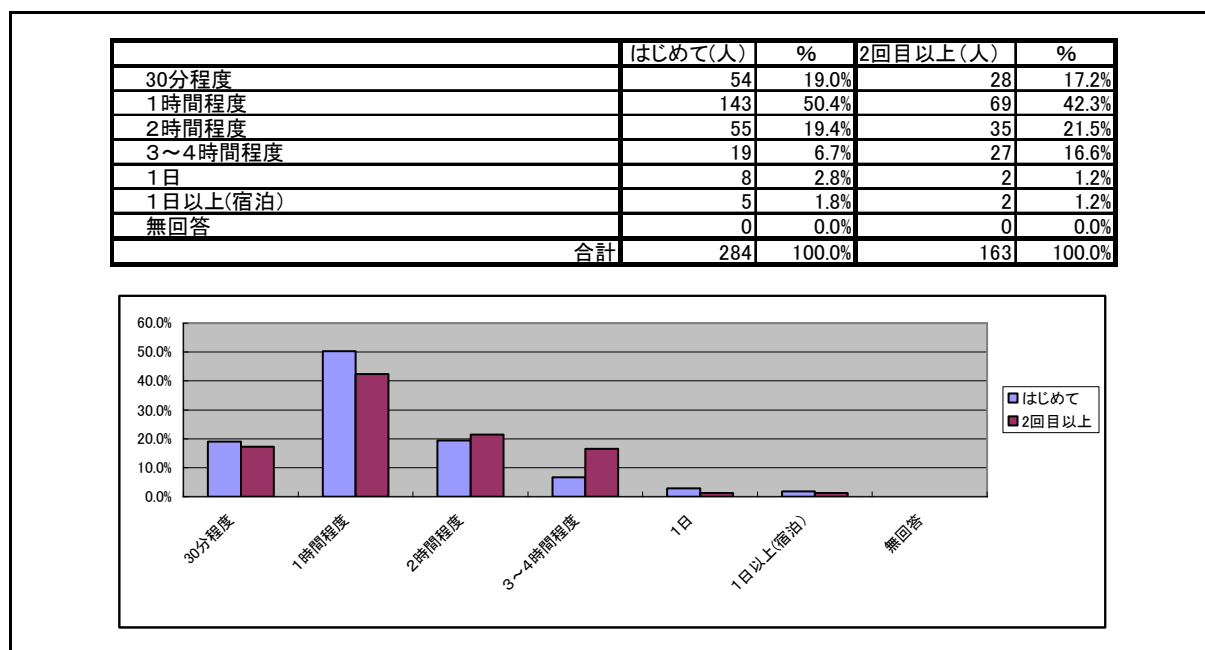


図 4-b : 訪問回数別立ち寄り先

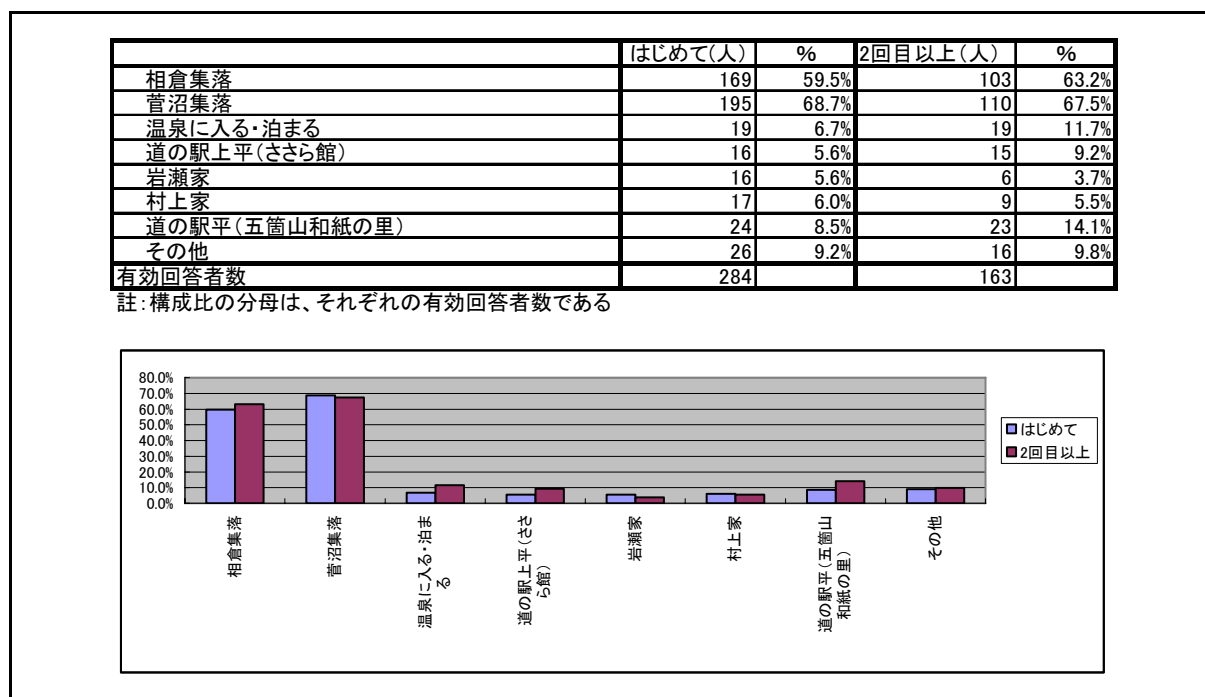


図 4-c : 訪問回数別旅行日程

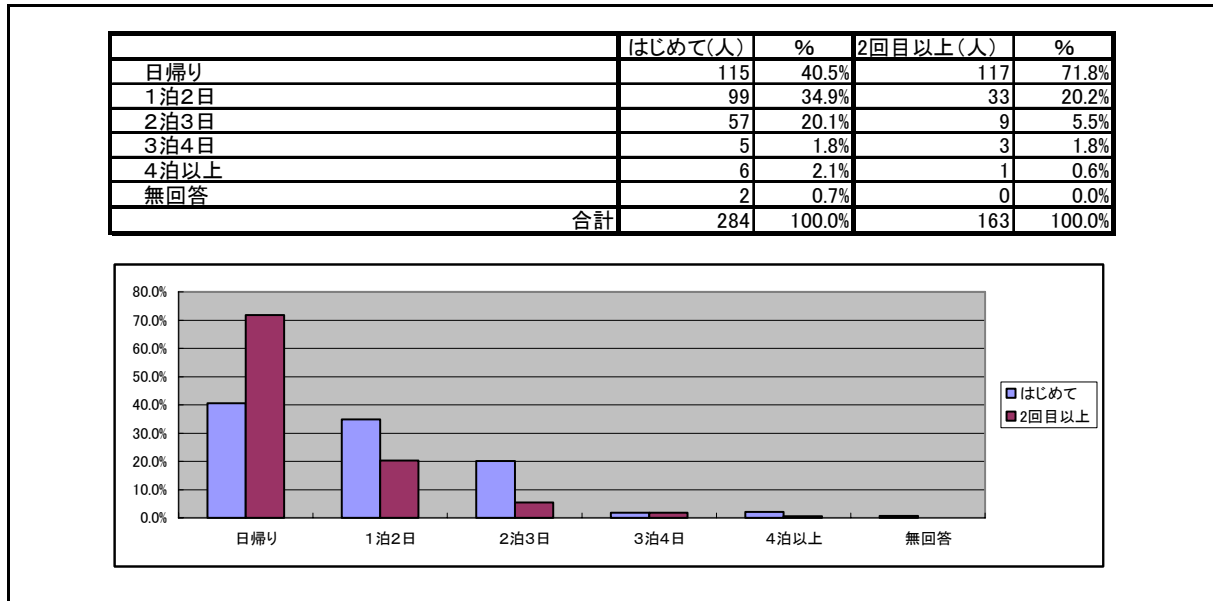
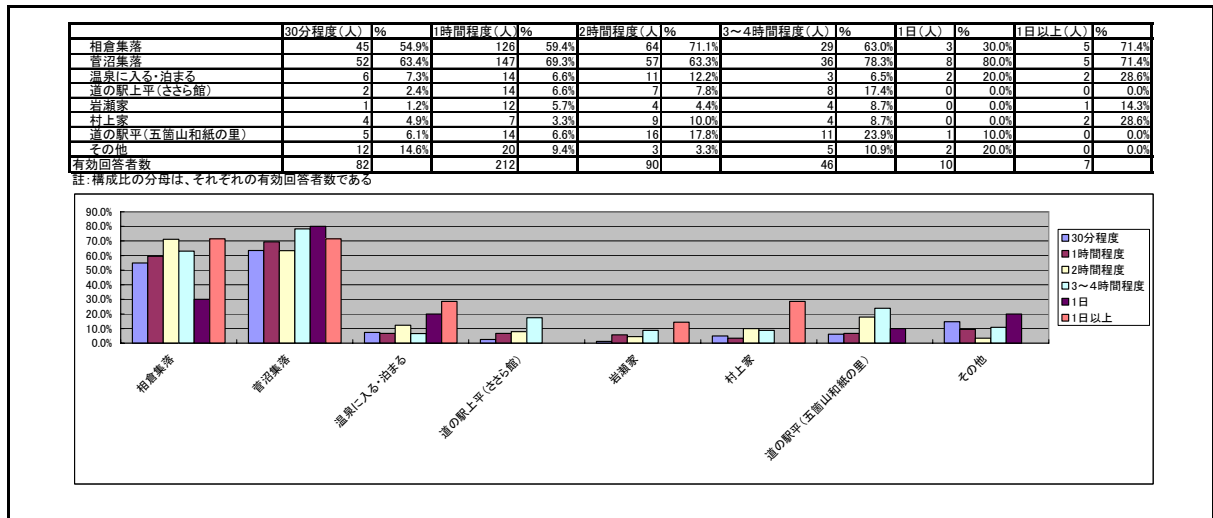


図 5-a : 滞在時間別立ち寄り先



参考文献

荒田崇浩 十代田朗

2000 「富山県五箇山の観光地化過程に関する研究」『日本観光研究学会第15回全国大会論文集』
PP.61-64

2001 「富山県五箇山における観光地化と住民生活・意識の変容」『日本観光研究学会第16回全国大会論文集』 PP.177-180

荻野 昌弘編

2002 『文化遺産の社会学』 新曜社

黒田 乃生

2007 『世界遺産白川郷—視線の先にあるもの』 筑波大学出版会

五箇山観光協会

2009 「五箇山観光客 月別入込み推移」 五箇山観光協会

斉藤英俊・稲葉信子

1996 『世界遺産 白川郷・五箇山の合掌造り集落：白川村荻町・平村相倉・上平村菅沼』 合掌造り集落世界遺産記念事業実行委員会

佐藤悦夫

2006 「五箇山地域の観光に関する一考察」『富山国際大学 国際教養学部紀要』Vol. 2, PP.81-94、
富山国際大学

助重雄久、五箇山地域研究グループ

2006 「東海北陸自動車道開通に伴う五箇山観光の変容」『富山国際大学 地域学部紀要』
PP.115-126 富山国際大学

富山県商工労働部観光課

2003 「平成15年富山県観光客入込数（推計）」 富山県商工労働部観光課

2004 「平成16年富山県観光客入込数（推計）」 富山県商工労働部観光課

2007 「富山県観光戦略基礎データ調査の概要」 富山県商工労働部観光課

富山県知事政策室 観光・地域振興局観光課

2008 「平成19年度富山県観光客入込数（推計）」富山県知事政策室 観光・地域振興局観光課
南砺市観光課

2006 『南砺市観光マスタープラン』南砺市観光課

西山徳明

2001 「自律的ヘリテージ・ツーリズム」『ヘリテージ・ツーリズムの総合的研究』

石森秀三・西山徳明編 国立民族学博物館

日本観光開発財団

1975 「五箇山青少年旅行村」『観光施設設備にともなう地域社会経済への波及効果に関する調査』 日本観光開発財団

日本観光協会

2005 『観光の実態と志向：第23回 国民の観光に関する動向調査』 日本観光協会